

婦人供



第六卷 第六號

東京 弘道館

首

婦人と子ども第六卷第六號目次

卷首 婦人と子ども

婦人と子ども

子供の書……………牧 羊…一

教育所感……………文學博士…元 良 勇 次 郎…二

女學生風紀問題……………女高師教授東 基 吉…九

婦人問題と男女交際……………西 山 愨 治…二

理想の家庭と子女の教育……………芙 蓉 生…七

貞一の日記……………其 母…九

實驗上の育兒……………醫學博士…瀨 川 昌 耆…三

同 胞……………露 子…六

短 歌……………真 宮 起 雲…一

俳 句……………鹽 野 奇 零…三

婦人と親族法……………太 田 英 隆…七

幼稚園のため

保育法の研究に就て……………女高師教授中 村 五 六…九

雜 錄

新刊批評

世論一般

子 ども

風 船 虫……………一

福鼠寶の山入……………二

會 告

綠蔭幽草花時に勝るの好時節故本月九日（第二土曜
日）の常會は効外にて開くが興あると、存じ十二社
にて開會池畔清風にあみつゝ懇話仕ることに相定め
申候但し集會前淀橋の淨水工場（新宿ステーション
ヨシヨシ三町）を參觀いた
すべく候間九日午後一時三十分右工場門内にお集り
下されたく候但し工場の都合之あり候間當日は靴若
しくは草履の類御用ゐる相成りたく候なほ雨天の節は
女子高等師範學校附屬幼稚園にて例の如く常會相催
し候

會員御中

フレイバー會

●●緊急會告●●

別項本誌革新の辭にて申述候如く本誌は愈大改革の時期に接し申候従つて茲に會員諸君に向つて二三の重要なる事項左に謹告仕候

一、本誌は從來會員にのみ頒布の目的にて本會自ら發行其他の事務取扱ひ致し居り候ひしが斯くては本會發展の爲め不利益と存じ今回東京市京橋區南大工町一番地書肆弘道館と契約して四月より以後本誌の發行及販賣に關する一切の件を該館主辻本卯藏に委託致し候因つて爾今本誌發送に關する件は總へて該館と御交渉下され度候

一、從來本會にて直接取り扱ひ參り候會費徵收に關する一切の件も前項同様弘道館辻本卯藏に委託致し候に付本月分以後の會費は同人へ宛て御拂込相成度候尤も滞納會費の徵收に關する件は依然本會に於て直接取り扱ひ申す可く候に付明治三十九年三月迄の分は従前の通り本會へ直接御送付

下され度候

一、本誌發展の爲めには會計の整理を以て最も重大なるものとす、因つて會費滯納相成居候諸君は明治三十九年三月迄の分至急取り纏め直接本會へ御拂込相成度候(四月以降は弘道館へ)

一、爾今入會御希望の方は御申込は本會へ直接に會費は弘道館へ宛御送金下され度願上候

一、雜誌御購讀のみ御希望の方は弘道館へ直接御申遣され度願上候

女子高等師範學校内

フレイベル會

弘道館

辻本卯藏

東京市京橋區南大工町一番地

フレーベル會規則

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ贖出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達セシガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
- 一 總會 毎年四月二十一日ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參列品幼兒成績物展覽會、會務ノ報告、幹事ノ選舉等ヲナス會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
 - 一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス
 - 一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスル者ヲ以テ組織ス但シ別ニ組合會規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
 - 一 雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シ之ヲ會員ニ配布ス
 - 一 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一人 會務ヲ總理ス
- 主幹 一人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
- 幹事 十人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
- 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第九條 主幹ハ會長ノ特選トス
- 第十條 幹事ハ會員ノ互選トシ其任期ナニケ年トス但シ毎年半数ヲ改選スルモノトス
- 第十一條 評議員ハ會長ノ特選トス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルコトアルベシ
- 第十三條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ス

謹告

戰後の教育的經營は、幼稚園をして奮起せしむるものあり。本會は實に其指導者たる可き重責を荷ふ。従つて其機關雜誌たる本誌は、年と共に其内容を精選し、郵税を輕減し、其他諸種の改良を實行し、今又大に計畫する所あり。近々之を讀者に發表するの機あらんとす。

讀者諸君希くば益々自重自信以て我保育界の爲に盡されんことを。

第一號發行

東亞之光

毎月一回一日發行

一冊定價金拾五錢郵稅一錢

六冊前金九十錢 郵稅共

十二冊前金二圓八十錢

郵稅共

▲口繪 ガンタラー佛像 (アートムーバ 寫眞版)

文學博士 姉崎嘲風解題

○發刊の辭……文學博士 井上哲次郎

▲論說

○青年の煩悶と宗教思想……………

井上文學博士

○目で見る文學……………

芳賀文學博士

○見神の幻覺……………

松本文學博士

○女子の修養に就て……………

野田文學士

○幻覺的神……………

福來文學士

▲雜錄

○藝術の起源……………徳の心理的事實と倫理的價值

△羨むべき小學教師○中學程度學生修養談

▲詞藻

○エリヤス翁……………江 湖

○途中下車驛……………果 山

○すみれ日記……………漂 渺

○五十七士……………瑟 琴 原

○幽韻の詩……………晚 翠

○効なき歩……………胡 蝶

○春風吟……………鴛 鴦 北

○歌數首……………鴛 鴦 北

○小袖……………干 瀉 の 人

○評論○上流社會○中堅國民○教育者の志操○社

會的制裁○慈善事業○富貴の者○羽織乞食○戀

愛の神聖等其他和歌川柳等滿載

前付の五

發行所 東京市橋區南大町一番地 弘道館

●新刊廣告●

學習院女學部長 下田歌子女史新著

女子の修養

和裝全一册

頗ル美本

正價金七拾錢

郵税金八錢

廿世紀女子教育の生粹
新家庭經營整理の寶鑑



本書は著者が女子教育の往々形式のみに流れ其の實質を失ふの憾あるを慨き嶄新の學理を緯とし平素の經驗を經としてものせられたるもの文章平易所說懇篤凡そ廿世紀に處する女學生及び閨秀の本分を全ふせんを期するもの須く本書なかる可からざるなり

發兌元

東京京橋區南大江町一番地

弘道館



子 と 母



婦人と子ども

第六卷第六號

子供の畫

世の中に子供の顔ほど無邪氣なものはない、子供の姿ほど可愛いものはない。何れ程冷酷な人でも、如何程腹の立つた時でも、この顔の姿に對しては、どうして心の動かされないものがあらうか、深夜人の門を破つて闖入した強盗でも眼醒めて床より這ひ出た赤兒を見ては、我を忘れてあやしにかゝつたといふではないか。

この無邪氣な可愛い子供の所作も同じ様に無邪氣で愛らしい、従つて西洋の畫家や詩人が、子供に就いて畫いたり歌つたりして居るのも、誠に多い。然るに獨り可笑しいことは、日本に於て、子供を畫題にして描いた畫家がまことに少く、詩や歌の題にして歌つた歌人がまことに少いのである。

従つて西洋には子供の畫の傑作も随分多いのだが、日本にはこれに乏しい。我國の畫家の畫いた子供の繪など愛らしくなく無邪氣でないものはない。例令ば顔は丸で大人の様に、姿は丁度人形の様だ。とても生々とした子供の精神が顯はれて居ない。或は日本の畫の風が子供を顯はすに適しないものか、或は日本の子供の顔の筋肉の具合が畫くに不適當だとか、或は子供の着物が不恰好だから不可ないとか、様々の理屈を云ふ畫家もあらうけれども、理屈としては何れも取るに足らぬ、つまり、古から吾々日本人が子供といふものに付いて趣味を感じるものが少かつたから、従つて子供に就いての畫も他のものに、様に發達しなかつたのだらうと思ふ。

教育所感

文學博士

元良勇次郎

▲幼稚園及び小學校尙廣くいへば、中學校の教育でも今から十五六年乃至廿年程前の教育の有様を考へて見ますと、學生に課する教科が度に過ぎるといふ苦情が、どこにもあつた。假令ば幼稚園などにとやると、いろ／＼な事を教へる。従つて競争心を起させ、其がために、泣出す様な事がある。唯に、幼稚園のみならず、小學校でも、教師がむづかしい事をいふから、子供にはわからずなりに、先生の云ふ事を聞くといふ様になる。これは、日本のみならず、西洋にも、此弊があつた様に、思ひます。

子供は、自分等とは違ひますから、餘程やさしく云はないと、了解されない、むづかしい事をい

へば、却て、効果が少ないのです。

三

私も、其時分に、先生方が學生にむづかしい事を教へて居るのを見て、感じた事がありません。其後は、始終初等教育の事に注意して居た譯でもなし、他に仕事があつた者ですから、つい其内に十年も十數年も過ぎてしまひました。所がものは中庸を得るといふのが、むづかしい者で、此頃になつて見ると、子供に教ふる事が、却て、あまりやさし過ぎる様に、なりはせぬかと思ひます。其れは、いろ／＼の原因がある事で、第一に教授法といふ者が、教育者諸君の實驗上から、いろ／＼と進んで來たと思はれます、斯かる事は、誠に結構なことであるが、併よき事が進めば、之に伴なう弊害が起る者です。

私が思ふに、此教授法が進んだ結果、學生が

骨を折る代りに、教師が骨を折るから、學生には、却つてやさしすぎはせぬかと、即ち、齒でかんで教ふるといふ形になりはせかぬかと思はれます。之を、食物に假令ふれば、胃も腸も大事な者であるけれども、胃に消化し易きものやわからかな者計で養ふて居れば、それになれてしまつて、今度は、少しでも、硬い者が入れれば、直様、其れがために、胃腸を損ふのと同じ様な事が、教育社會に行はれて居りはせぬかと思ひます。一方から申せば、子供を幼稚園にやつて、日々する事を聞いて見るに、此頃は、習ひ過ぎると云ふ様な恐れはない様に思ひます。小學校にても先生が學校で覺えられるだけの事を教へ、家庭では復習しないでも、いと云ふ様になりましたから子供は自然、家では、遊んで計居るといふ様にな

る、遊ぶ事は、いゝが學生が骨を折らない爲に、學力が下つて、行きはせぬかと思ひます。これは、立派な中學や高等學校の先生方がいはるゝ事である。何が欠點であるかは、一概には云はれないが、あまり學生を優待する譯ではあるまいかと思ふのであります。

不消化なものを、子供に食べさせては、いけぬといふても、齒でかめる者ならば、硬きものでも與へた方が、よかろうと考へます、これは、廣く觀察して、申したので、大勢の子供を一所に集めて教へる事は、よほど困難である、私の理想は社會精神を養ふ事は、一所にしてもよいが、教へる事は、個人々々にした方が、宜しからうと考へます子供々によつて、違ひますから併し大勢の子供を集めて、教育するといふ事は、種々の點か

ら避ける事は出来ないけれど、十七八年前に、教育者が論じた事に、學生には、餘計の事を課し過ぎると云ひましたが、今度は反對に他の極端に傾いて來たのではなからうか、實際仕事に當つて居る諸君のお説をうかひたいものです。

▲それから、兒童の教育といふ者は人生將來にどれ程の効果があつるか、云ふ事に就て、お話を致します。

私は自分の経験にて、どの位の時の事を、記憶して居るかといふと、四才の時に出來た事は、きれ〜に覚えて居るけれど、續いて覚えて居る事は六才からです、精神生活の方面からいへば、六才以前にありては、いゝ事もわるい事も、全く覚えなない、之は、人によりて、違ふ様ですが、私は此様に思ひます、して見れば、六才前の事は、

將來人生上に、あまり、影響を、持たぬかと考ふれば、そういうわけにはゆかぬ。意識上からは、そうですが、吾々の精神作用の基礎は、身体の生理活動にありて、意識に残つて居らぬにしても、幼時に受けた印象が、將來迄残つて行く事はいろ〜の點から、學者の證明する所です、殊に、吾々の記憶は、初めに覺えたもの程、ながく存するものであります。實際の事實について云へば、子供の時に學校へ行て、教育を受けるといへば、四書とか、五經とか云ふ者を、暗誦するといふのが、其當時の教育法でした。其後西洋の思想が入つて新教育法が行なはれる様になり、一時大學とか、中庸とか云ふ様な者は、つまらぬ者として、殆んど捨てられてしまひました。其れでどの事が、何の書に有つたか忘れてしまつたのです。其れから

何年かを經て、考へて見ると極子供の時分に、覺えた事は、忘れない、年が行く程、子供時代に、覺えた事が、非常に興味があつて、昔は譯もわからず暗誦した者が、今は、わかつて來ますから、子供時代の事が、益々興味がある様になつて來たといふ様な譯です。

そういふ様な事から、考へて見れば、人の習慣と云ふ者は其人の生涯の基礎をなす者です、西洋あたりの宗教家が其子供を教ふるのに、未だ何も、わからぬうちから、教會につれて行て、聖書を讀ませるとか、又暗誦させるとか云ふ事が、成長後其人に大なる影響を及ぼすので、幼時に覺えた事は、非常に強い事であるから實際事實に矛盾して居ても兒童の時に、覺えた事が最後の勝利を得てしまふ事が幾等もあります、今のは、西洋の例へ

ですが、日本でも同し事で、子供の時に、習ひ込んだ事は、一時すてられても、成長するに従つて子供の時分に聞た事にかへつて來る様になる。漸く思ひ起して見れば、宗教といふ者は、道理を以て之を解くとか云ふ様な事よりは、子供に教へてむと云ふ事が、非常に強固なる基礎になる者です。

一体、ローマンカドリックと云ふ宗教の、傳道の仕方は、たしかに、効を奏するにちがひない。之に因て見れば、子供の時に、教へこむといふ事は、大切であるが、又他の方面からも考へて見なければならぬ、他の方面とは子供に教へる事は、何年たつても、如何なる場合にても、變らない様な極確かな事を教ふるのは、適當ですが、國民教育の點から云へば、或一派の人の信仰にかゝると

云ふ事は、子供に教ふべき法でないと思ひます、殊に、日本の宗教は、いろ／＼に分れて居ますから、成長後にさめるのは自由ですが、國民教育時代には、教ふべき者でなからうと思ひます。

其れで、六才以下の子供にはどういふ様に教ふべきかと云ふに、私は、其れに就て、細かな論をするのではないが、智識を興へる事は、其れ程必要でないかと思ふ。今申した様に、幼時の事は、其れ程には覺えない故に、唯秩序ある習慣をつけ、其れ程に、最も必要な事と思ひます、此習慣は、智識としては、存しないが、其人の生涯の上に最も大なる影響を興へる者です。故に、兒童教育は凡て他の教育の基礎をつくる者であるけれど、尊ぶ所は、智識上に表はれた基礎でなく、習慣上に表はれた者であらうと思ひます。

▲教育家といふ者は、教育を職業とすべき者

である。しかも此教育家といふ者は、他の事業と違ひ、極樸素な仕事で、今日働いた事を明日見る事が出来ない、自分が施して居る、教育が、子供の上に、將來よき結果を、興へるといふ自信がなければならぬ、若し、其確信がなければ、眞の教育家たるの資格がない譯である。他の事でも同じ事であるが他の職業は、半年か一年の後どうも具合が悪いからといつて、かへる事が出来るけれど、此教育家のする仕事は、そういふわけには行かぬものである、故に信ずる所によつて行はねばならぬ。所が、其れと連絡して居るが、兒童研究といふ事が、西洋などでは、大に、人の注意を引いた事です、餘程前には、日本でも、人の注意をひきました、其後兒童研究に對して、反對の論が

出た様です、其論は、教師が大切なる子供を扱ふのは、重任である、然るに、子供を材料に使つて子供を研究するといふのは、悪い事であるとの論が、亞米利加あたりで云ふた事であります。

其れから、にわかと云ふ譯でもありませんが、児童研究に對する人々の熱心が、衰へたかと思はれます。然し、児童研究といふ事は、矢張り或學者は益々續けて、やつて居ると云ふ様な次第で、日本に於ても、大部世間の注意を引きましたが、或人には斯る議論が、影響したかと思はれます、一時は教育者も自から研究したいと思つた者もありましたが、やつて見ると随分面倒な割合に効が表はれないと云ふ事で、其等の事も、児童研究の熱心をさましたと云ふ事であらうと思ひます。然し、之は誠に残念な事です、私も研究したい

のですが、時間がありませんから、自分では、研究しません、然し常に大切の事とは感じて居ます、斯る事は、研究の方法に就ての論であつて、醫者は病理について、研究するから、病を癒す事が出来る、場合によりては生きながらの解剖をしたります、誠に残酷ではあるが學理を研究して應用せんとするので、つまり醫者は、病を癒す目的である衛生家は、生活を完全にするのが目的故其道理を研究する、斯る一般の理屈から考へれば児童を教育するには、児童研究が必要である。

私の希望は、どうか實際児童教育の研究をなしてお出になる諸君の中に、一般の心理學の研究をなし、又生理學の基礎の上からも、児童の心身の發達を研究される事が、今少し振入事を切に望む所です。

斯の如き次第ですから、身体が健全なれば、醫者は、用はないと思ふけれど、病の時には、醫者の治療を受けなければならぬ、其れがためには衛生家も必要である、之と同じ事で、兒前もよい

兒ばかりならば研究もいらぬが、多くの中には癖のある者もある、之を癒して行くには、平生に研究して置く事が必要であります。

前にもお話しした様に、人を教育するには、充分の愛情をもつて行かねばならぬ、子供に材料にするといふ弊がある故に、妄りに好奇心半分に、子供を材料に使う事は、本より反對すべき事であるが、其れは、研究者の良心に訴へ可きもので、若し眞面目にやるならば、教育の目的たる愛情を以てするのと矛盾せぬ事と思ひます、若し、そのいふ方面に、趣味を有する人が、研究なされば、吾

々僅かの者の幸福なるのみならず、教育社會全体の幸福だらうと思ひます。

●子供と距離の看念

小兒が初めて物を見るにはその近きものから始めてだん／＼遠き物に至るものである。されど其距離と云ふことは殆んど考へてない。或觀察者の云ふには殆んど一才の小兒か庭に立ちて二階の人に物を手渡せんとした。と云ふ。距離は小兒の運動が盛んにならなければ了解することの出来ないものである



女學生風紀問題

女高師教授 東 基 吉

▲女學生の風紀問題は、よし一般世間で取沙汰する程大袈裟でないにしても、よし所謂女學生と稱せらるゝものの中には、多く學女生ならぬ他の下等婦人が含まれて居るといふにしても、兎に角この問題は女子教育上、決して忽に出来ない問題で、然も、これは獨り學校教育の力を以て解決することは出来ない、主として各自の家庭、及び社會全體の協力に待つべきものである。

▲現今の風紀を匡濟し、多數の女學生をして誤なからしむる方法は、勿論種々あらうが、別して、地方から遊學せしむる父兄等に警告したきは、其子女を決して下宿屋なり又は緣故もなき素人屋に寄宿せしめぬことである。女學生の風紀問題の解

決は、先づこれが實行を第一だと思ふ。而して學校の方に於ても、其學生がこういふ所に寄宿して居ることを決して許さぬ様にするのである。勿論、生徒を多數に收容して利益をのみ計らうとする學校では、到底これが實行は六ヶ敷と思ふが、これは當局に於て嚴重に制裁を加へて取り締れば宜しいと思ふ。こんな風にして正しく學校に籍を有する女學生といへば、悉く教師とか親戚とか知己の家に寄宿せねばならぬことにして仕舞ひた

いと思ふのである。

▲次は女學生の外出である。男女交際の最も自由な風といはれる米國に於ても、女子の外出には大に制限がある位なのに、我國の女子の外出が極めて自由であるのは寧ろ怪しむべきで、これがこの問題には非常に大なる關係をもつて居る。

この點に就いては各家庭では勿論、一般社會に於て年少女子の一人外出といふことに向つては、大に制限を加へ、午後一定の時間を限つて夫より以後は父母か又は年長の監督人かに伴はれるでなければ決して一人で外出をするものない様にし、若し一人で外出する様なものは何れ下等婦人と相場の決つたものにして仕舞ひたいのである。

▲次は男女の交際である。目下の處では青年男女交際の自由なことは、或は本家本元の米國よりも反つて日本でないかと思ふ位である。此點に就いては新聞紙のいふ所全く事實でないとはいへぬ。一般世人の考ふる所必ずしも誤解だとはいへぬ。青年男女學生の相伴うて市中を散歩せるは近來殊に吾人の目にすら多く觸れる、時には郊外に共に寫生する一群もある、立派な官立の帽子も時に

は見える、彼等悉くが必らずしも兄弟姉妹ではあるまい。之等は何れも苦々しき次第ではあるがつまりは女學生の下宿生活、素人屋生活、若くは無制限な一人外出等から胚胎し來る結果である。

▲外國では年少の女子が一定の時間を過ぎて後、一人で外出したり、若くは青年の男子と相伴つたりすることは身分のある家庭では決して許さぬ教會にすら一人ではやらぬ。まして演劇其他の所に於てをやだ。此點から考へて尙、我國の教會の様な所に於ても、女子が夜間一人でやつて來るといふことは禁じたらよからうと思ふ。女子の集まるのは晝間にし、男子のは夜間といふ風に別にしても宜しからぬ。教會だからといつて集まる人が、必らずしも基督許りを崇拜信仰する人のみだとは限らぬ。否な綿羊の姿をして居る娘が事實多いの

だから。

▲小説家に向つて、青年男女の思想を寫した小説をかくことを禁ずることは無理である。俳優に向つて、同じ様な劇を演ずる勿れといふことも無理である。然し親切に女子教育の任に當る家庭が、各自この問題に注意して右の様な方法の實行を考究するとか或は暫く子女を是より遠くると云ふことは當然の義務ではあるまいか。社會は複雑なものですから或一部のものに惡るいからとして悉く夫れを社界からのけることは出来ない。教育上不都合なものは之を暫く被教育者から遠けるのが父兄の任務で其手数が面倒だからとして併せて社會からも除け様と云ふのは少し勝手過ぎる話だと思ふ。



婦人問題と男女交際

(日本家庭辭書のうちより)

西山 慈 治

題して婦人問題と男女交際といふ、二者共に家庭に關する根本問題にして、婦人問題より派生して女子天職の問題及び女子教育に關する研究の聲や起る可く、男女交際は結婚制度に影響して結婚問題殊に自由結婚に多大の關係を有し、此の結婚制度は直ちに家庭組織に煩を及ぼして世の所謂自由結婚を標榜するものをして別居制度を主張せしむ。頃者家庭問題の研究の盛なる、或は曰、婦人の獨立、女子の生活問題、地位を高めよと呼び、或は男女交際を稱へて自由を叫び、家族制度を打破して別居制度に従ふ可しを主張す、此等の多くは西歐に心酔せる人の口吻によつて傳へらる。然

れども思へ、制度に適不適あるは尙ほ國によつて其の政体を一にせざるが如く、農産物は適地にのみ産して北海道の地は到底蜜柑の産に堪へざると一般、西洋諸國に取つて利あるもの却つて我に需めて害ふの太だしきものわらざるなきか、制度は一なり、種子は同じ、而も取る人、用ふる國、養ふ土地の如何によつて其の結果を異にするもの其れ果して制度の罪か、此に於て吾人は習慣制度を愛護すると同時に進取改革を否定し敢て世の進化に反抗を試むるの愚を學ばざるなり、過渡の時代に處す吾人の態度亦難きかな。

日本家庭辭書編纂の理由、輕佻を以て知られ、浮華を以て此に名わりし我が出版界は家庭研究てふ一新流行の問題を追ひ、此れに關して世に公にせらるゝとの甚だ多きに係らず、未だ議論の正

確、説くに懇ろなるものなく、多くは一時的駄作の非を危れざるもの殆ど無といふも人敢て首肯を拒まざるに似たり、吾人は常に家庭に忠實に似て却て不忠實なる我が出版界に對して多少の怨ずるところなき能はざりし也。此れ余輩が僭越を敢てして本書を編するに至りし動機にして、幸に書肆弘道館は目下印刷に多忙にして近く世に出ん、今此に是非を言ふは自畫自贊の甚だしき陋擧たるを思ひ、本書發刊の日を期して幸に一讀を榮を賜はり、且叱正の勞を惜ませ給はざらば余の光榮何を以てか之れに加へん。今同書に載するところの婦人問題——女子の天職、男女交際——自由結婚の四項を抜いて題意に副はんとす。

(次の四項は、日本家庭辭書原稿の儘を引用せるが故に各項の間に組織連絡を欠き、論旨一貫せず、斷片に失せる嫌なしとせず、

讀者幸に辭書として本編を讀まれんことを、切に……)

婦人問題 婦人問題の盛に唱導せらるゝは、獨り

女子の爲めのみならず、又、男子の爲めにも慶賀すべきことなり。職業なくんば終生人に服従し依頼し、品位價值なし故に女子に職業を授け、獨立を與へよとは論者が主張の要點とする所なり、然れども外、社會に出で、收入を得んとすることをのみ職業と謂ふべきか、即ち女子が家庭に於ける業務をばたゝ收入なきの故を以て職業にわらず、價值なしとするを得べきか、尙ほ研究を要す。歴史に見よ、何れの世にか女子に職業を興へざりし國やある、齊家、教養のみを女子の業とするも尙ほ此れ女子の大なる天職にして貴き職業にわらざるなきか。又、女子に獨力の意味なしと謂ふ、然れども獨立とは自活を意味せず、妻は夫の力によ

りて其の生を營むと雖も、又、妻の力なくんば夫たるもの何んぞよく其の家を成し、其の業に力むるを得んや、夫婦は偕に各自の職分を有す、各自の職分を自己の手一つにて果すもの此れ獨立せる人にわらずや。然らば夫にして獨立の人ならんか妻も亦獨立の人なり、何を苦んでか家を棄て、夫を顧みず、又、愛兒を抛つて社會に職業を求め多少の收入を得て獨立の人と誇稱するの要あらんや。夫れ武人は劍を手にし、伶人は笛を取る、伶人は自己の地位を高む可く笛を棄て、劍を執らんとす此れ正しき道か、其の笛を手にせるまゝにして尙ほ自己の地位を高め劍を手にする能はざるか、若し伶人にして武人たる品性を缺かんには劍を手にして武人に伍すと雖も、詮なし、其の劍たる伶人の爲めに鈍ならずんば幸なり。若し女子にして

誠によく自己の天職を自覺し其の職分に力めんか
 此れ正に獨立の人にして社會進歩の功は半を女子
 に許し、自ら求めずして其の地位を高むるを得べ
 し。世の天職其れ自らが貴き神聖なる職業にして
 天職の爲めに力むる、此れ獨立の人なり。獨立の
 人に對して社會は何ぞ輕侮し其の地位を呪はんと
 するの酷に失せんや。人生の要義は自己の天職を
 自覺するにあり、女子は自己の天職を自覺して始
 めて其處に獨立と貴き地位を得るなり、又、何ん
 ぞ獨立を興へよ、職業を絶叫するの要を見や。
 女子の天職 健全なる國家は健全なる家庭に舍り
 此に有爲の人物を輩出し慰安、反省、勇氣を興へ
 以て社會に大事を爲さしむ、此れ女子が能く内を
 守り、男子をして社會の表面に立ち安じて健闘せ
 しめし偉功にあらずや、人、誰か偉大なる女子の

功績を認めざるものあらんや。人生の活動には内
 外の別あり、内に於て家政を整理し、衣食を調し
 老体に奉養し、子女の教養を掌り、能く夫を慰藉
 するは周密、親切、忍耐に長ぜる婦人に俟たずし
 て何んぞ能く男子の爲し得べき所ならんや。實に
 婦人は内に活動すべき天職を有し、家庭は婦人の
 爲めに設けられたりと謂ふも不可なし。能く一家
 の和合に力め夫をして悠悠外に活動せしめ子女を
 教養して良民を提供するは個人及び國家を益する
 實に大なるものにして此の重要に且困難なる衝に
 當る女子の功勞は決して男子の外的動勞に譲らざ
 るなり、男子が獨立ならば女子も亦獨立なり、女
 子たるもの何を苦んでか自己の天職を捨て、男子
 と外に競はんとはする。實にや、内を守るは婦人
 の天職にして、男子を外に女子をして内に動か

しむるは其の精神上及び生理上に於て天の配劑たるを示せるものなり。然れども内を守りて尙ほ餘力あらば、女子の天性に近き慈善事業に従ひ或は國家の大難に際するや、夫の爲め國の爲め尙ほ男子的職務に動しめ然も且辭せざるの覺悟なかるべからず、されど此は變の非常なる場合にして女子處世の常經にわらざるを知らざるべからず。

男女交際 交際とは言語舉動或は文章を以て相互の思想を交換するを謂ふ。男女の思想を交換するもの、此れを男女交際と謂ふ。我國に於ては支那思想の影響を受け男女の交際は行はれず、其の東洋思想の常として、男女七歳にして席を同らせず、との教訓に勢力ありて、専ら男女別離主義行はれしなり。然るに西洋にては盛に男女の交際會あり。此の風習今や我國に傳播して穢に男女交際の唱導

せらるゝを見るに至れり、夫れ男女は其の性質に於て大に其の趣を異にす、即ち身体に於て然り、亦其の精神に於ても男子の獨立、進取寛大なるに反して女子は優美、温順、保守なるを通性とす。此に異なる性格の男女をして交際せしめ相互の性情をして融合調和せしむべく、又男子は女子を、理解する機會を與へんと目的よりして此の問題漸く熾ならんとす、然れども青春の男女をして漫然其の交際を實行せしむるは尙ほ大に注意を要す。利あると共に弊害の來る亦甚だ少なからざれば父母教師は十分嚴重なる看督の下に行はしむるを要す。

自由結婚 愛なき結婚は罪惡なるが故に彼我の人格を知つて相結ぶにあらざれば到底僧老同穴に永續なること能はず、即ち結婚は自由なるべし

とは自由結婚主義者の主張する所なり。然れども彼等も其の始めに於ては相識らず、互に想像する

ことによりてのみ解したるに過ぎず、殊に若き男女の交際は互に衒ひ飾りて虚偽に流れ容易に相互の眞狀を洞察する能はずして相互の人格を知るは結婚後のことに屬し、始めの想像と一致せず爲めに多少の失望と豫想外の感なくんば幸なり。夫婦は相敬愛し以て其の人格を完うすべきも愛情は強烈にして青春の男女は未だ十分なる知識経験なく、只烈火の如く熾なる情のみにて何等前後の思慮、將來の分別を省みず、一時の愛情に溺れ將來の幸福を犠牲に供し爲めに熱情次第に其の度を失ひ、今日の樂園は化して明日の悲境たらんとす。夫婦間に於ける高潔純粹なる愛情あらば情誼日と共に加はり益々永久堅固となり。必ずや、彼の「諸

共に解くるにつれてくやしきはつれなく過ぎし昔なりけり』の念なかるべからず。彼の自由結婚の如きは互の人格を誤解して不釣合こそ不縁の原因となり、遂には悲惨なる一幕の痴事に終らん、されば眞の自由は長上、父母の助言に聽き以て盲目的なる一時の感情を抑へ公平に最も冷靜なる態度を以て理性の判断に任ぜざるべからず、今日の自由結婚論者の唱ふるが如き愛は決して純潔にあらざして結婚の目的を全うすべからざるのみならず、又社會の秩序を害するの甚だしきものとして吾人の斷じて服する能はざる所以なり、尙ほ結婚の目的の項に説くところあるべし。

(完)

▲面白き婚禮、スペイン國には面白き婚禮の習慣がある。富者は早朝に式を行ない身分低くなるに従つて段々遅くなつて貧者は夜分になつて禮式を擧ぐる由

理想の家庭と子女の教育

美 蓉 生

世の中に理想と現實との差違程甚だしく相違のあ
るものは他にないと云ふてもよい位でせう。殊に
其中でも理想の家庭と現實の家庭との相違は亦實
に非常なものであると云ふことが出來ます。世上
幾多の青年處女は果して此邊の考があるのでせう
か。吾々が常に耳にする處では夫妻の相愛は即ち
理想の家庭の唯一原素であるかの様に聞えます。
従つて理想の家庭とし云へば即ち直に新婚旅行の
夢の如き樂しみや、すみれ花咲く春の野遊などが
其主なるもの、様で誠に罪もなくたわいもない
ものであります。勿論夫妻の相愛は家庭の要素で
あり基礎となる可きものには違ひありませんが併
し是ばかりを夢みて居てはいざとなつては失望す

ること許り多いだらうと思ひます。家庭は確かに
人生の樂土であると同時に人生の最苦限場とも云
ふことの出來るものです。然るに理想の家庭なる
空想中に唯其愉快なる方面のみ畫かれて頓と其苦
しみとなる可き方面の實際的想像が少しも加はつ
て居りませんでは其理想は全く實現し得られざる
空想に過ぎないと云ひませう。斯く申ましたら
或は斯様な苦しみ多き家庭は理想するに及ばぬ理
想の家庭と云ふ以上は樂しく愉快なる可き筈では
ないかと云はれるかも知れませんが、夫れは黃金
時代の家庭即ち家庭なるもの、絶體的空想と今近
き將來に於て此不足多き世の中に於て實現せんと
する實際的想像とを混合するもので誠に不健全な
る思想だと思ひます。吾人は世の青年處女諸君が
彼絶躰的空想を去つて此實際的想像を盛んに作ら

れんとを希望します。而して既に實際的想像と云ふ以上は其中に子女教養に關する想像が當然加はる可きものだと思ひます。已れの子女は如何なる目的を以て如何なる方法に依て教養す可かは甚だ興味ある問題たると同時に頗る困難なる問題であります。然るに従來の家庭の理想に此方面の研究の足らないのは頗る不健全な次第であります。所謂ハイカラ女學生流に考へたらリボンと洋服で唯もを美しく、飾り立てたら夫れで最早充分と思ふて居るかも知れませんが實際は中々困難なもので云ふことよく聞く様に仕向けなければ云ふことは聞かず、絶えざる注意と不斷の勇氣とがなければ一つの良習慣も形成することは出来ず、其困難と心配とは一通り二通りではないのであります。逆も女學校の補習科で一二冊ばかりの教育書を見

たからとて決して賢母で候とは申された義理ではありませぬ。然も世の母たり妻たらんとして居る女學生諸君には果して此邊の考がありませうか。甚だ覺束ないことであります。何故となれば彼の忌はしき空想は子女教養の上にも行はれて單純なる教育書上の議論や理屈が直に譯もなく行はるゝものと思ひ込むのが普通の有様で其實行上に於ける諸種の故障や妨害には頓と氣が付かず況んや不注意の中に何時しか養はれた惡習慣は如何にして取除く可きか、思はぬ結果を生じた事項は如何に處置す可きか、家庭に起る日々の事件が兒童の心身に如何なる影響を與ふ可きが等に就ては殆んど夢中と云つてもよい位なものですもの、斯様な事で何うして理想の家庭が現實されませうか。夫妻の相愛は家庭の基礎であり、結組織たる

には相違ありませんが然も其現實さるゝや必ず家政整理と子女教養との二方面を離れて存することはありませぬ。従つて家庭なるものゝ完全なる理想は如何に家政は處理す可きか、如何に子女は教養す可きかに就て充分研究したる後に於て初めて成立す可きもので決して樂しき遊びや、たわひもなき戯れを夢みることに因て家庭を理想することは出来ないものであります。既に家政整理と子女の教養とが家庭理想の二大方面である以上は彼家庭を離れて雜風景な下宿屋生活乃至は牢屋の如き寄宿舎住居をして居る星やすみれのハイカラ女流に完全な家庭的理想を以つたものゝないとは明かな事ではありませぬか。是に至つて吾人は今日のハイカラ女流者は到底良妻賢母の候補者たる資格なきものと斷言するに憚らざると同時に今後の

女子教育が今一層此方面に適切ならんことを望みます。此思想より論ずると云と彼高等女學校に於ける家事科中の育児法は餘りに狭く餘りに一局部に偏するものと云ふことが出来ます。吾人は尙進んで幼兒教育、兒童教育の一般は勿論能ふ可くんば青年男女の監督指導論をも四ヶ年程度の高女學校に必須科として科せられんことを望むものであります。

貞一の日記(承前) (明治三十六年)

その母

四月廿日、夜眠る前、床の中にて、「貞ちゃん、大きくなつたら、學校へいつて、學校の兄さんとお相撲とる、母さんも、大きくなつたら、學校へいつて、おすまふとる」といふ、貞一にして

は始めての長き御話なり。

四月廿一日、父の不在中、名入さんが、氣に入らぬ事をした時、「メー貞ちゃん顔でらん」といふて、にらむ、父が叱る時メー、父さんの顔でらんといふを思ひ出して其通りにいふなり。

便通なし、鼻少しつまる、

四月廿四日、黒き塗物の菓子器を見て、御客様の

御鍋といふ。

四月廿八日、母、今日は芝の阿部さんへ行きて、歸宅後、短かき竹切を見せて、これで、お向の兄さん、貞ちゃんをついたと、自分の顔をついて見せる、いたかつたかときけば、痛かつた血が出たといふ、(血が出たはおまけなり、痛ければ血が出るものと思ひ居るなり)

四月廿九日、朝より父母と、王子の印東に行く、

自轉車の前の方に、坐蒲團を結びつけて、それにまたがり、ハンドルにつかまり、父に押してもらつて行く、染井の墓地近くなりて、父も一所に乗り車を、馳すれば、後になりし母を呼びてやまず、またお迎へに来る、余り人のなき所はよるこびて乗れど、人が立ち止りて見れば、もう恥しくなつて、おひるくといつてきかず、康樂園(印東)へつきてからも、文子さんや、忠男さんが、チャホヤもてなして下さるのが、恥かしくつて、おうちへかへるゝとばかりいふ。

五月一日、指ヶ谷町を散歩する時、大工の家の障子の、赤く塗れるを見て、「サントー障子」といひ、又其近所の床屋の障子の、青さを見て、「二ト一の障子」といふ、流車の切符の、三等二等と聯合したるなり。

五月五日、名八さんと、外にて遊び、近所の子供の全し位のと、喧嘩して、取つ組み合ひを始む名八さんが、引き分けると、眞赤な顔して自分の持ち居りし山吹の枝にて、相手の顔を打つ。五月六日、午前父と自轉車にて、上野のことも博覽會に行き、おもちゃの瀛車を見て、其所を動かす、また山の上より、停車場の方を見て、瀛車くといつて中々其處を去らうとはせず、漸くおやつつ時間來りしことを口實に、其所を去る、「瀛車サヨナラ」と、大聲に叫ぶ。近所の子供の、顔に腫物の出たるを見て、これこわい顔といふ。電車ごととして遊び、「カーチャン動きなさい、ワタシ追ひかけるからといふ。ワタシといふ語の使ひ初めなり。

五月十日、午後二時過ぎ、地震あり母抱きて、庭に出でたり、後にて地震がひどいと御家が、つぶれるといひしに、「貞チャンの御家が、つぶれたら、海氣館おうちへ、行かなくちやならん」といふ、海氣館が中々に氣に見つたと見えて、いつも口癖の様にいふ。五月十六日、「貞チャン瀛車に乗つて、千葉へ行くと見えなくなつてしまふ」といふ故、何氣なく「ソ〜!？」と、母が答へしに、「行つちやいやいへ」といふ、湯屋の傍を通りし時、煙突を見て、大きな砲兵工廠といふ、何時でも、砲兵工廠の瀛笛がなると、砲兵工廠は何所であるのとさく瀛笛を砲兵工廠といふものと思ひ居るなり、其の瀛笛は煙突で鳴ると思ひ、煙突を見て大きな砲兵工廠といひしものらし。

五月十九日、今日午前十一時、名八さんの神戸に
行くを送るべく、父母と電車にて、新橋まで行
き、父と流車にて品川まで送る、「ナーチャンは
何所へ行く」と問へば「コーベ」といひ、「貞チ
ヤンは」といへば、「シナガハ」といふ、品川の
停車場にて、流關車より水の出づるを見て、「キ
カンシヤ、シツコ」(流關車などは玩具の流車に
て其形を熟知し居るなり)といひて余程面白く
感じたらしく、暫らくながめ居たり、流車中に
て、「これどこへ行く流車か」と問へば、品川へ
行く流車と答ふ、「海氣館へ行くのはどの流車」
と問へば、「千葉へ行く流車」と答ふ、(ついで)
近頃貞一の言ふ面白きことは、誰でも自分に氣
に入らぬことをする時は「コラメー、母ちゃん
(或は父さん)怒つてチョーダイ」といふ。お菓

子ねだる時は「も一つも一つといはないから
一つチョーダイ」などいひ、貞一の持つてるも
のを側から、貞ちやん頂戴などいへば「メー、
チョーダク、ナイ」といつて拒絶し、御機嫌の
よき時は、太鼓をたゝいて「ナムメウホーレン
ゲンギョ」といつて廻る、これは名八さんのし
て見せたるを真似るなり。お客の來た時は、不
機嫌にて困つた顔をすれどさてお返りの時分に
なると、急に元氣附いて「サヨナラ」とか「グッ
ドバイ」とか思ひ入れになつていふ、三の數の
觀念は確に出來たらしく食後の磯部せんべいを
二枚とか一枚とかにすれば「サンマイジャナク
ツテハイカン」などいふ。四以上は分らぬ様な
り。

實驗上の育児

醫學博士 瀨川昌者

産婦の乳と鯉汁

▲喰べなれた食物、母親の攝取した食物が乳汁へ分泌されて、一々夫れが顯れるやうでは、何一つ喰べるにも滅多に安心は出来ません、那れを喰べたら乳汁が悪くなりはせぬか、之れを喰べた爲めに哺乳兒が何日も機嫌が悪いのではないかと、心配しましたと際限のないことで、夫れが實際又反應ある事なら大に注意を嚴重にせねばならぬけれど、實驗上にも道理上にも爾ういふ理屈は打消されて居るから、平生喰べ慣れたものは安心して喰べなさい、あれもこれも悪るからうと憂ふる事は却つて乳汁の細る、出の悪るくなる基となりませす

▲母乳の中に顯れず、先づ夫れが證據にはモルヒネの如きも一定の分量を用ゐれば夫れが母乳の中に顯はれるものではないのです、アルコールの如きも其通り母が飲んでも乳汁へ分泌されて出るのは容易にないので、夫れ故重複云ふやうだが平生普通に喰べて居るものなら何を喰べたからとて乳汁を悪くするやうなものはない哺乳兒の身体に害となるやうなものは乳汁の中へ出て来ないと斯う心得て貰ひたい、素人の能く醫者に聞く事だが「小兒が乳汁を吐いて少しも飲まぬから、母親に藥を貰ひたい、母親の乳汁へ其の藥が分泌だらうから」と斯う云けれど今も申す通り爾う旨くは自由が利ぬのです、併し非常な大なる分量を與へたなら或は母乳へ顯はるだらうが爾んな無鐵砲なことをしては母親の身体を害ふではありませんか。

▲ビールと肉食 處で母親の乳汁を充分にするには水分のある食物を澤山取るやうになさい、其上旨い滋養分を餘計に食べれば乳房に故障の無い以上は乳汁はドク／＼響て出ます、水分は乳汁の分量を増すもので、又乳汁を程よく調和するものです、水分のある食物を食べぬと乳汁が濃くなり過ぎるし、又夫れが出すぎると小兒の消化を害します、故に西洋ではビールの如き水分を要して肉類の如き蛋白質の多きものを同時に食して母親は乳汁の分量の衰へぬやうに心配けす。

▲鯉汁と乳汁 日本では産婦に鯉汁を賞美して與へます、乳汁の出る唯一の薬は必ず鯉汁に限るやうに、昔は何んな高價を拂つても鯉を求め夫れを汁にして與へ、まだ今日でも此遺風は傳はつて居る、併し鯉の滋養が獨特に乳汁の出を良くするも

のかと云ふに、決して鯉に限つたものではない、ト云つて決して食べて悪い譯ではなく食物としては滋養に富んで居るし、汁も滋養なる味噌が原量で且つ水分が多いから澤山に喰べれば従つて乳汁の分量は増へ分泌が多くなるのです、然し昔の如く乳汁を増す薬は唯鯉汁に限るやうに思ふと誤解します。

母乳と分泌

▲出過ぎるは病的 乳汁が哺乳兒に飲み切れず、例日も餘り過ぎて母親の襦袢や着物を透してシミ／＼濡れる場合もあるし、又爾ういふ母親が随分多く世間に見受けます、幾ら母乳は澤山なのが良いと云つても餘り出過ぎるのは宜しくありません、詰り之れは一種の病氣であります、デスういふ餘分に出過ぎる場合には何うしたのが宜からう

かゝ云ふに食物を叩へ目にする事が尤も善良なる手段で此方法が素人に出來易い安全なる良策です、乳汁の出過ぎる母親は斯くしてお試しなさいけれど極端に食物を控へ目にして身体の健康を害すやうな拙劣な方法を取つてはなりません

乳汁を出す手段 夫れから母親が身体健康で居乍ら乳汁の分泌が非常に悪いとがある、是れは全く乳腺の發育が不完全である爲めだが、斯ういふ状態であつても決して落膽し「モー逆も乳汁は出ない、不足だから仕方がない」と斷念することは非常なる不利益などであるのみか、餘りと云へば無責任な譯であります、斯く失望するよりは先づ哺乳兒にセツセと吸はする事を工夫なさい、乳汁は吸はせれば吸はせる丈乳腺の機關が微妙の功を奏し是れ迄不完全で活動せず居た部分が段々

活動して來るものです爾うして乳汁の分泌量が殖えて來て哺乳兒一人には充分飲ませられる丈になつて來る、何んでも根氣克く丹精して吸はせねば宜けません、吸せるのは即ち乳腺に刺戟を與へるからであります。

▲賣藥及精神の感動 賣藥などに「乳汁の出る妙藥」などとれいれしい招牌を出してある、是は西洋などにも斯んな賣藥は見受るが直接に乳汁の分泌を多く殖すと云ふ妙藥は古來無いので 文明の醫學上にもまだ此發明をして奏功したのは一つもない、夫れ故斯んな曖昧な賣藥などに瞞かされず前にお咄し致した通り食物の上に力を注ぐ事が何より肝腎であります尙茲に御注意して置きたいのは俄に精神の感動を與へる場合、即ち非常に驚くとか、非常に悲しむとかの場合には乳汁分泌の

上に關係するから、此の時は絞つて捨てて哺乳兒に飲ましては良くないと云ふが、是れも誠に不確な説で、是れ丈の結果が顯はれたと云ふ確然たる證據は顯し得ないので、詰り是れは唯一片の理屈に止まるもので、乳汁の成分が變化し俄に悪くなる事はないのです、併し餘り永い時日悲泣交々至るやうな所謂苦勞が續く場合には乳汁の細る事があるのです。

乳を飲せて悪い病氣

▲母乳の鑑定 善良なる母乳か、又不良なる母乳か、夫れを簡便に素人の方の鑑定出来る事は極く必要な事です、其の心得は詰り哺乳兒に母乳を飲まして害が無ければ宜い、母乳を吐きもせず、夫れを飲んだ爲め下痢もせず、哺乳兒が健全に肥満して、往けば異條のない結構な母乳と申さねばな

りません

▲飲ませて差支ない病氣 次に母親の乳汁を飲まして悪い事即ち廢乳としなければならぬ場合がある、夫れも保育上大切な事なれば能く記憶致されるやうに願ひたい、元來母親の病氣のときは乳汁を吸はせる事は宜しくないけれど、病氣と云つても種々あつて急性もあれば、慢性もある、悪性もあるが、何んでも病氣と名の付く場合は絶對的哺乳して悪いかと云に決して爾う斗りは云へない、一時急性に來た病氣なら少し位發熱があつても飲まして差支へないので、例へば人の多く胃され易い感冒とか腸胃加多兒の如き病氣に罹り急に熱の起る事があるけれど、心配せずに飲ませるが宜いソコデ万一其の母乳が悪く、哺乳兒の害になる質があれば、直ぐに夫れを吐いて收まらなないので、

斯る事實が顯はれたら直ぐに廢めてお仕舞ひなさ
い。

▲悪性病の場合 急病なら兎に角、重い病氣で永
く全快せぬとあれば之れは絶対に廢乳せねばなら
ぬ、尙ほ慢性の結核、癌種、梅毒、微毒、斯くの如き悪
性の病に胃された場合は申す迄もなく哺乳しては
ならぬのです。

▲乳房の病氣 身体は健康でも大切なる乳房に故
障あらば之れも廢めなければならぬ、乳房の病氣
と云へば先づ、腫れを起すとか、凝が出来るとか
乳首の裂瘡と云つて乳首に裂けるやうな瘡が出来
非常に痛みを感じるものです、此裂瘡は哺乳兒に
吸はせてる間は到底治癒りませぬ、殊に瘡からは
出血したり、膿を洩したりするので开かな有害物
が乳汁へ交つたら哺乳兒は何んな害を受けるかも

知れない且つ母親も裂瘡のあるにも係らず吸はし
て居て何時の間にか其瘡から恐るべき微菌でも喰
入られたら飛んだ危険を醸します、ケレど吸はせ
なければ必らず乳房が張て来るから之は必ず絞
捨て、仕舞ふ事です (續く)

▲癩病國と美人 内務省最近の調査にかゝる青森縣下に
於ける癩病患者の數は七百八十五人なるか此程増田譽な
る人の實地調査に依れば第三期の癩症のみにても二千九
百人の多數に達せりとは驚くべし同地方は人も知る如く
容貌端麗皮膚の美はしきこと白玉の如き美人に富むは畢
竟是が爲なりと云へど如何にや

同胞

桑港より 露 子

聞きてだに身の毛もよだつ桑港の大地震、幾多の人命を損ひ巨億の財を灰燼に歸したる其中に、身は是れ數千里外なる異域の人、學びの旅路に憂き月日を送る身の、さしもの大厄に遇ひて、毫も心亂れず、坦々として平地を行くが如き其心根、惡き程に穩なることよ(記者附記)

母の遺産三千弗、金もたぬ人の眼からは羨ましからんもはらからとも父の面影を知らぬほど不幸なる孤女、父よ母よとすがるべき暖かき手をもてる人嫉ましく、あはれ金もほしからず、衣裳も寶石も何かせん、よしや破れたる裳をかゝげ、古びたる帽子いたゝきても、父あり母ある身となりたやと、姉妹相擁して泣きたること幾度か。

姉さん、あなたは四つの時だと云ふではありませぬか、せめて父君の御言葉の二ツや三ツの、御心にとまつて居るのをさかして頂戴なとラアにす

がられて、姉のカザリンは、それだつても、あれこれかと思ふのは夢のやうに心の底に残つて居れど、よく思ふとみな母君の御言葉のやうで、これが父君のと云ふては、消えた石盤の文字を尋ねるやうだつ、ほんにわたしどもは不運だネー、この御寫眞のあるのを、せめてもの慰めとしませうや、母君の世にいませし折は、愛の泉の汲めども盡きず、旅にある父君を噂するやうな心地、かくまで父の戀しき想なかりしを、母なきあとのこの五とせ、母にもまして戀しきは父君なりける、吾は十八、妹は十四、浮世のありさま、春霞たちこめしバナラマのやうにでも、見える齡となりしためか、奇しき吾等の心なる、悲しきは吾等につらき命運の風なるよと姉は心の底に、亂る糸を解さつ、繰りつ。

ラアよ、いつも云ふ通り吾等の學藝は吾等の父君でまた母君なのですよ、悲觀すると勇氣が挫けます、今日の佛蘭西語はどうでした、サアおさらひしませう、そのあとで、御身の好むヂッケンスの輪讀をはじめませう、オヤいやな瓦斯だネーその次のにもライトしなさいよ、よろしひサア御讀み廿六章から三十章まで、今日は非常の進歩でしたよラテン文二ツでお茶をにこして來た姉さんが御恥かしいよ。

かくて定め時刻まで文机を共にし、同じベッドによりそひて、現なる姿にもまさりし清き想は夢路をさすらひて、いかなることかものがたりけん、眼を破られて二人ともベットよりころがり落ち、かたみに蒼き顔を見つめ、地震よといふも口のうち、いかにして階段をくだりしか、いかにし

て戸を排したるか、覺えず見かへれば前庭の芝生の上に相抱きて倒れ居たりけり。

ラアよ、吾等はこのまゝ死すべきにわらず、父もいまさじ母もなしとても、學藝は吾等の父母なるものを。サア元氣をつけて、逃げませう。いつの間にか靴も穿ち居たり。財寶も提げ居たり。ラアよサア逃げませう、アレ姉さんと云ふうちに崩れ落ちる音すざまじく、泣きさけぶ聲かなたこなた、ころげつまるびつして逃れゆく後ろよりバツト炎えいだすは誰が家よりの火事か、耳なり眼くらめきて、人の走るまゝ意味もなく方角もなく走せゆきぬ。地震はいつの間にかやみたれど、執ねき火はいづこまでや焼かんとすらん、黒煙白煙空に漲りて東に西に馳せゆく人、戰の庭の砲丸にも似て、ふれなばそのまゝ斃されん、ラアよ、

カザリンよと枯れさびたる聲ふりしぼりてかたみに手をひき合ひ、金門公園の木かげに倒れたるのち、はらからともにしぼし人心地なかりし。

水道の管破裂したれば、ダイナマイトにて鎮火を企つることか、海戦陸戦交々闌はなるに似たる響、われにかへりし二人は、云ひ合せし如く顔見合せて、吾等は死せざりしよと心のうちにつぶやきぬ公園に逃れ來る馬車殆んと絶ゆる間もなく、落城のありさまもかくやと思はる。

自助獨立の國ぶりに養はれし身、ましてやすがるべき父もなし母もなき孤女の、かくてやはとの心むらむらと起りぬ。財囊を開きて紙幣と銀行券とをハンカチーフについみ、カザリンこれを肌につけ、のこれる黄金白金を妹のポケットに納め、それにしてかゝる寝巻すがたにて逃れ來りして

と口惜しや、ララアよ、どうせうネ。姉さん御心配なさいますな。たしかこの近きに衣裳店がある筈、いつか散歩の時見たやうに思ひます、地震も今に治まりて、火事はこゝまではあんなに離れて居ること、わたし、ゆつて見ませう、わたしはまだ子ども、ことにこの折のことですから何の恥かきしことがありませうと姉のうなづくをまたでかけだしたり。

神は吾等に死を與へ玉ふとも、吾等に恥をば與へ玉ふまじ、妹の望みまどかなれやと木蔭をいで、うち揚げば、黒煙すさまじき中に日は高くのぼりて、まだ覺めやらぬ夢心にも、吹く風身にしてみても、心細さ一としはなり。父もなく母もなき孤女二人、公園に飢死せりと云はるゝは口惜しきことの限りなるかな。衣裳を手に入れしのは、この砂の上

に新家庭をしつらへん。太平洋に海嘯起りて、市中を波の下となし終らばしらぬこと、宿る家のなればとて、空しく死なるべきか。形なき學藝の戦場にまで、姉妹唯二人にて打つて出でんと思ふものを、形骸の始末何のむつかしきことやある。うれしや妹はかへりたり。

姉さん、丁度よかつたのよ、とりみだして手のつけようがない店のうち、ふと眼につきしは學生服、そのまゝ買ひとりて参りました、これは私のです御氣の毒な、姉さんのは一寸とうつりが悪いやうだ、私のはまことに氣に入つてよ、帽子もありませよ、サア人の來ぬ間に着かへませう、つゝんできたこの毛布を風よけとして、わたしもつてぬませう、サア早く早くと促がしたり。自ら助けよとて天の興へ玉ひし力、ためすはこの

時と夕ぐれまでに可愛ゆき靴のゆき、せはしく、何に傷つけしか織手に縋帯までして、形ばかりの避難處漸くつくりあげたり。テント一重なれど砂を吹く風を防ぐに足るべく、石をたたみたるストーブも枯枝を拾ひ集めてはコークするに何の難きことかあらん。わが事就りぬとうちを姉、ア、くたびれたと亂れがみかきあぐる妹、野の花を見ずやとのバイブルの匂も思ひいだされて、今更ならぬ神の御めぐみに感められぬ。森のかけ、木の下には同じく難をさけたる人々群りて、テントの新市街は時と共に焚えゆくこそうたてけれ。心安しやと遠くながめたるほとりまで火炎の舌になぶられて、幾千日にもあれ、焚き得るものゝあらん限りは焚きつくさんと云ひたげなるすぎましさ、日の沈むとも紅くなりゆく

惡魔の面影憎しとや云はん、畏ろしとや云はん。夜もすがら火をながめ、爆裂の音をきゝて眠られ

ず、されど戰はじまりてすでに血を見たる人の如く、こしかたもゆく末も思はず、心畏ろしきが中にも一種の覺悟ゆるぎなく、さもあらばあれよとうちゑみたき心地するも奇なり。ゆきゝの人のかたるをきくに、この天災の犠となりて、あるは碎かれあるは焚かれて斃れたる人、殆んど數千人、幾千萬弗の市の光彩の、箒の先に拂はるゝ蜘蛛の巢の如く、今はあとかたもなく蹴ちらされ、これよりのちいつまで焼かんとするらんなど、はかなしと云ふよりは寧ろ天災といふものゝ力の偉大なるに畏敬する心も起るなり。

震動は未だやまず、されどなれたるにはあられなく覺悟の上ははじめの如く驚かず、動かすがまゝ、

に動かされて、船室の窓より怒濤をながむるにも似たりけり。

あくる朝、ものとのへんとしてゆきし妹のいふに、ブレードを求むる人々ベーカーの店を起點として、五十人あまり長き線をつくり居たりとか、所謂ブレードラインと云ふもの、かゝる折ならではいかで見らるべき、このあたりは平和のちまたと云ふべきものなれば、人の世の禮讓と云ふものまだ残り居れど、下街のあたり、白晝ピストルをさしつけて、食物を掠すむるもありとか、淺ましとも淺ましきことにこそ。

火は三日にして漸く消え、四五日後にして警察の取締りもとの如くなり、兵士の警衛も加はり、新聞も發行せられ、電車もある部分は通ずるやうになりぬ。されど折々の震動未だやまぬために、い

づこの家にも未だテントを撤するにいたらず、
皿鉢などのみ破られし家にも、臆病神の威光を
はかりて、いづれも家のうしろに假屋をしつら
ひ、破られぬ煙筒ありながら、砂の上のストープ
の煙りにむせび居るこそわりなしや。

ララアよ新聞の口調ならねど、桑港は再び起
るべし、前途には光明輝けり、吾等は死なれま
せぬ吾等は學びませうと、毛布に身をつゝみなが
ら、學課の間のいろいろを試むるはカザリン、二
週間の野營にて忘れがたきあるものを學ぶ、流石
にすてがたき想ある新家庭を解きて、再びルーム
の中に起臥することゝなりたりけり。口癖のやう
に云ふなる、學藝は吾等の父母なりとて、かたみ
にはげましていそしみ居ることなるべし。さるに
てもこの二週間に、心の底に刻まれたるなみなら

ぬ想のいろいろ、いつの日いかなる時か、カザリ
ンの筆の花に一點の紅を添ゆるをなからずや。
ララアのピアノの音に余韻を現はすことのなから
ずや。浮世の風は徒らに吹かず、神の與へし運命
は、順逆二た色の木材のみ、自助獨立の鑿はそ
の愛子なる吾等の手にあるものを、刻むべきを刻
まず、彫るべきを彫らずして、いかでかわたら生
涯を朽木となしはつべき。この命のあらん限り、
勉むることを勉むる外に、道と云ふ道もあらじと
ぞ思ふ。

(終)

▲盆栽と外人 近來俄かに外國人の本邦盆栽を賞玩する
もの多くなり目下横濱盆栽株式會社の手に依つて海外へ
輸出されるものばかりでも一ヶ年四百萬圓に上る由、猶
彼等が最も嗜好するは百合、殊に鐵砲百合を以て第一だ
さうです



短歌募集

△課題 隨意

△切 毎月末日

△發表 本誌上

△賞品 三光に粗景を呈す

△選評 眞宮起雲

△投稿 用紙隨意清書して左記の處へ送らるべし

但添削及返稿を望まるゝ方は往復葉書又は

切手封入のこと

「伊勢國白子局下稻生みどり短歌會」



短歌

起雲選

三十四

○ 鈴村 花子

すくひ上げし白百合の香に歌はなりぬ君がみ庭を回る小川に
夕鐘に牡丹くつるゝ夕べなり山のおちこちあやしくも湧く

○ 中川 龍

朝明けや若葉のすゑに月見えてすがしくも鱧流れ來る
花のせてながす筏はゆふ霧に消えてくれ行く河三十里

○ 吉川 紅花

笹壁の糸にぬきては玉と見え思ひをつなぐさつきさめ哉
朝風にゆれてはこぼるふしの花ゆかりの色にわれ憧れぬ

○ 中村 鶴聲

搖ぎては玉と露ちる若葉かげあしたゆふべを歌に領する
融ぐまにまじりてやせし白百合を根ともうつつしてわれめでん哉

○ 岡野 艶子

乘にとはさみし花のいるあせて思ふ事ならず春くれにけり

○ 佐藤 翠川

人の世の幸にはぐれし身を寄すにふさはしきかな野の一つ家

○ 松田 小波

藤の花こぼるゝ水に影うけてこゝろなく飛ぶ雲のまじろき
なにかし
卵の花に雨ぼそふる窓の戸をひらくにも憂きわが悶えかな

○ 平 岩 繁 治

岡山のつちに果てんの運命なりやさはれ目しひの子等を思へば

○ 飯 塚 曉 霞

朝雲にひびりたか鳴く野をかけて春日うららに菜のはなさかり

○ 青 山 美 香

清水わくうらのきりたち香葉して畫なほ圍うあやし鳥なく

○ 吉 澤 小 雨

枕べのともしまたく此宵を瓶の勺薬はなこほれたり

○ 泰 白 浪

うつゝにて時々笑めるみどり兒にまたも泣かるゝわが運命かな

○ 大 西 益 子

冥府よりのつかひの聲か病室のしゝまをやぶる夕ぐれの鐘

○ 田 邊 學 洋

乳母が家の緋桃さきぬと告げこせし文見て泣きぬ病室の窓

大空に秘めしみうたのひと巻かあしたかゝやく石楠木の花

○ 清 水 光 風

馬子うたに襜野十里はゆふぐれて神代のゆめを見る景しき哉

うなだれて母に答ふる術もなうひと針づゝに思ひ縫ひゆく

○ 林 静 子

亡き妹の日記をひもとく五月雨や兒をおもふ歌のいと多き哉

うつし世にかなはぬ望み胸にして悶ゆる夜なり鳴く子規
なつかしき友のおき文手にとらば怪しうふるうほつれ髪かな

○ 玉 尾 紫 水

白鳩はいらゝぎ回り子等はまた母にはべりて平和を見る
このまゝにいけても見たし朝露にくれなゐほこる勺薬の花

* * * * *

知るや人若葉の露にそぼめれていづみをめぐる夏あさの興
青葉づたひ子規なくこの宵を古りし琴柱にうた彫りつけぬ



めしよせて

今日のあつさを

けつり水は

むかし身にしむ

おもものなりげり

(小杉 楓 軒)

婦人と親族法 太田英隆

第二款 離婚の効力

離婚は婚姻の解除であります。即ち夫婦たる關係を斷絶せしむるものであります。是れ實に離婚の主要なる効力と云はねばなりません。さうして離婚から生じたる婚姻解除の効果は配偶者間に於けると其子に對するに於て各異なつてゐます。今其重なる者を述べませう。

甲 配偶者の身上に關する効力

一、離婚した配偶者は實家に復歸するのであります。

ます。

二、離婚した配偶者は、相互に扶養を爲し又相互に同居するの義務を免るゝものであります。

す。

三、婦は將來夫權に従ひません。隨て其結果た

る無能力を免脱します。

四、離婚したる配偶者は各婚姻を爲すことが出來ず。

來ます。

乙 配偶者の財産に關する効力

元來夫婦財産契約は、二人の結合によりて爲つたものでありますから、其結合が解除されたときは、其契約も亦從つて解消すべきであります

丙、子に對する効力

一、協議上の離婚のとき子の監護を定めなかつたときは其監護は父に屬し、父が婚家を去つたときは母に屬します。

二、裁判上の離婚のときでも右と全じであります

すが、

裁判所は子の利益の爲め右と異つた處分を命ずることが出來ます。

離婚届も婚姻届と全じく一般に必要でありますから、左にその例を挙げませう

○離婚届(協議離婚の例)

東京市京橋區金六町五番地士族商人

夫 堀越吉之助
明治十年五月六日生

右父 堀越松太郎

右母 琴江

妻 ひとと
明治十二年三月八日生

右父 吉村鶴之助

右母 とめ

復籍すへき家の戸主

吉村太郎

右協議に依り離婚候間及届出候也

明治三十九年三月六日

右

夫 堀越吉之助
妻 ひとと

東京市神田區猿樂町二番地官吏

證人 村松吉郎
村松吉郎

東京市日本橋區北新堀町九番地教員

證人 櫻岡多賀夫
櫻岡多賀夫

○離婚届(裁判離婚の例)

何府縣郡市町村番地屬藉職業

夫 某
生年月日

右父 某

右母 某

妻 某
生年月日

右父 みぎちち 某 なにかし

右母 みぎはは 某 なにかし

復籍すべし家の戸主 よけせきすべし いへのかしめ 某 なにかし

右離婚候間別紙 裁判謄本相添 及 届出候也 みぎりこんそうあいだべつしし、ばんとうほんあいそへおよがとけいでそうらなり

年 月 日 ねん ぐわつび

右

(訴訟提起者) 某 そしよていきしや 某 なにかし

但しこの場合は離婚裁判確定後十日内に届出で

ねばなりません

▲朝顔の發育 八十八夜も過ぎ去つて朝顔種の蒔附けもこれからと云ふ處であるが今年は氣候も順當であつて發育も至極良好の見込、昨年よりも余程の大輪を咲かせる事が出来るであらう。
▲雀の蕃殖力 は驚くべきもので只一番の者から十ヶ年後に二億七千萬羽以上の子孫を蕃殖するさうだ。

學校幼稚園のため

保育法の研究には古來の教育家就中フレーベルの教育説に論及するの必要あり

女子高等師範學校 中村五 六

保育法殊に幼稚園教育に就いては幼稚園を始めて作つたフレーベル氏の教育説に及ぶの必要あり、殊に同氏は幼稚園の元祖として、はやく教育改革者として、吾人の先輩が尊奉してをるのであるから吾人が、同氏の説を祖述し、之を批評するの必要がある。今若し、同氏の説を離れて新に研究せんとするは、番に同氏に對して敬意を失するのみならず、實際上不便の點が多くあつて智者の取るべき方法でない、故に、フレーベル氏の説を基礎と

し、尙後人の説を加味して論述することが自然の順序でわらうと思ふ、

まづ、説述の順序として幼稚園の起原について一言せん、抑もフリーベル氏が幼稚園を作つたのは事偶然ではない、古人のいへるが如く、事は成るの日に成るにあらずして、遠く溯りて、淵原する處がある、今、その幼稚園の原因が何處にあるかを索ぬるに、フリーベル氏以前に溯り、十六世紀中、ペーコンといふ學者が、教育上に一新紀元を開いた、氏は植物が外部の勢力如何によりて生長發達上に變化を來すの理にかんがみ、教育上指道の下にある小兒と、園丁の監理する植物との間に同様な關係ありとなし、小兒が境遇の勢力を受けて發達する、植物の外界の勢力を受けて發達するのと類似の關係ありと説明したのであ

る。

次にコメニウス氏はペーコン氏の説に感じ、直ちに之を教育學上に主張せしのみならず、更に進んで、小兒の教育の任に當るものは、其の母親を以て尤も適當なるのである、されども世の母たるものは、必しも、適當なもの計りとはいへない。假令、此母にして、學識と小兒を教養するの器能がありとするも、世の務に一身を委ぬるもの、とても兒女教養に全力を盡くすこと能はざるは、實際の狀況である。而しながら母が、其の子の教育に對し責任を負ふべきは、一定不動の理であると論結した。

コメニウス氏に次いて、ペスタロチー氏は、母がとても實際教育に當ること能はざるを以て、母の任務に代るべき或る特別なる施設の下に教育を施

すべきの計畫を立てた、是れ即ち幼稚園若くは幼稚學校の先驅である。

ペスタロッチー時代に歐洲に於ける教育の有様は記慮主義の教育が主であつた。我國でも維新以前は、難澁な書物について讀書させる位のもので、心意の發育を顧みなかつたやうに、歐洲にても記誦によつた教授法が盛に流行したのである。そこでペスタロッチー氏出で、直覺教授（實物教授ともいふ）を唱導し大に普通教育の改良を叫んだ今日我が明治の教育法も氏に則る處實に多く、一時ペスタロッチーの主義は我教育界を風靡するに至りしことありき。

されども、ペスタロッチー氏の説とても、其以上に改むべき點なしとせず、氏の説は眞理もあれば、亦缺點とする處少からざれば、之に反對若くは補

正を加へたるものが現れた。殊に氏の弟子なるフレーベル氏は此の主義方法上更に一步を進めて、人心の自然的法則と萬有普遍の理法とは全然同一なりといふことを確信し、之を教育上の基礎としたのである、即ち教育上の基礎は兒童の自發活動を啓發し之を適當に指導するにありと、是れフレーベル氏の考の一步進んだる所である。

且又、ペスタロッチー氏は兒童の教育は専ら家庭に屬せしむべしといつたが當時フヒテ氏は之に反し、兒童の教育は國家の責任であると論じた。然るにフレーベル氏は此の兩者の説を融合して、一種の教育場を創設せり、尤も氏は一八二六年に「人の教育」といふ書を公にし、次いで「保育法」を著し、氏の教育説を發表したが、實際の教育上の施設は千八百四十年に幼稚園の名稱の下に生出し

た。之れが世界に於ける幼稚園の嚆矢である。抑も幼稚園教育の考は氏以前に既に他の教育家の頭腦中にありて、多少、氏の考案に類似のものがあつたが、幼稚園といふ一定の名稱によりて兒童の教養をしたのは氏の外にはない、之れ氏を幼稚園の元祖として仰ぐ所以である。

フレーベル氏は只に幼稚園の元祖たるのみでなく教育全般に於て成功したものと謂つてよい、即ち氏の表出主義は普通教育に於て他の教育家にゆづらぬ功績である、而して尙こゝに附言すべきは氏の幼児教育の方法即ち兒童を遊ばしめて教育する方法は古くより行はれておつた。プラトー氏の書中にも、埃及の幼稚學校のことが書いてあるのを見てもわかる、即ち古昔より幼時教育の觀念が大學者の研究問題となり、漸次傳はりて、フレー

ベル氏に至り始めて大成したるものであるから、其起原はフレーベル氏以前に溯りて論ずるとするも、幼稚園を設け、實地に幼兒を教育したるの點は氏に初まれりといふべし、故に幼稚園教育に關しては、フレーベル氏の教育説を基礎として、批評的に論究するのが最も便宜であつて、氏を尊敬する所以であるされども氏の説にも多少缺く處なきにもあらざれば、今日之を取捨するは最も必要のことであると思ふ。

▲今夏の衣裳 例の如く元祿式と桃山式が流行で色合は先づ紺菊、小豆、梅鼠などの赤味を帯びたのであるが藍氣の勝つた色合即ち花田色、納戸色、深草色の如きは本年の新流行。

雜 錄

● 女子高等師範學校彙報

▲英語臨時教育養成所志願者 同所は豫て入學志願者募集中なりしが去る廿日の願書提出締切迄に差出したる志願者数は七十四名にして、去る廿四日より引續き三日間入學試験執行せられ目下詮考中なりと云ふ

▲同校々友會の遠足 去る五月十二日同校生徒四百名は職員數十名に引牽せられて房州鹽田浦に遠足せり。

同日午前五時校門を出發し兩國より別仕立の列車にて三時間の後三門驛に下車し夫より鹽田の浦なる海濱にて一日の清遊を試み午後二時五十分大原

驛より乗車して歸校せり。當日房總鐵道會社は鹽田浦に於て地引網を二ヶ所に引かして興を助けられたり。又往復共列車の千葉縣女子師範學校傍をかすめつゝ、通るためには該校の職員中に態々停車場迄出迎はるゝあり、生徒は手々に窓より手巾など打ち振りて歡迎の意を表されたり。斯て全く歸校せるは日暮るゝ頃なりき。

● 丙午と婦人 今年は丙午だから大地震あるだらうなぞと云ふ中に今にもあるかの様に慄はてゝまでも騒いだ地震は洋行して亞米利加で大搖れに搖れてしまつたが近日は地方にも東京にも大火が頻々として起るので丙午の年に碌な事はありはしないとヤキモキする御幣擔ぎも尠くないそをだ。甚だしきは此頃亞米利加杯でも氣の早い連中は日本の此言ひ傳へを何か根據でもありはせぬかと研究

し出したものもあるをだ。殊に又丙午に生れた女は夫を食ひ殺すと云ふことを云ひ振らすものがあり、又之を信じて居るものもあると云ふに至つては、沙汰の限りであると云はなければならぬ。

其證據には弘化三年の丙午に生れた貴婦人である左の人々を見れば思ひ半ばに過ぐるだらう

▲松村銀行頭取夫人菊子 ▲石黒軍醫總監夫人くが

子 ▲土屋陸軍中將夫人兼子 ▲星野文學博士夫人さ

ん子 ▲土屋伯爵夫人與志子 ▲加藤文學博士夫人壽

々子 ▲前田子爵夫人祉子 ▲鈴木貴族院議員夫人菊

子 ▲立見陸軍中將夫人みの子

右の婦人は何れも夫婦共健康でそして極めて運の

善い方々である又岩崎彌太郎氏の夫人喜世子も弘

化三年二月の生れ醫學博士緒方正規氏の母堂も同

じ四月の生れだそうな

●結婚調査所 物質的文明が進み、世の便利が進むに従つて彼も便利最も便利とマア便利なもの、殖た事と云つたら非常なものです、遂に見出し

の様なもの迄出来ました。是は對手の身元を調べぬ爲めに、縁組して後思はぬ不幸な目に遇つたり又商買の取引に相手方の資産や信用を熟知せぬ爲

め、後で大變な損耗をする事などが往々あるのを防がんと爲めたと云ふので、依頼者の需に應じて結婚及び取引の相手方の身元に付き、秘密に詳細に

明確に調査をするのが目的だそうだ。そして其調査の報酬は結婚は十圓より二十圓迄、取引は三圓

より十圓迄、商會店員等品行の内偵は三圓より七圓までと定めてあるをだ。(場所は京橋區南八丁

堀三の八)

●矯風調査 徳島縣教育會にては左記の事項を原

案とし、之が實行方法及補充すべき事項及其方法を調査すといふ。

▲社會に於て矯正すべき事項

- 一 時刻を確守すること
- 一 大陽曆を大陰曆に附加するを止め大陰曆を用ひざることを
- 一 婚姻葬儀祭典等は華美上虚飾に流れず質素に爲さしむること
- 一 蓄妾の風を斷たしむること
- 一 醜業を營む者を一層嚴重に取締ること
- 一 演劇場寄席者を取締ること
- 一 盆踊を廢止すること
- 一 新板書籍、新聞雜誌の取締に關すること
- 一 卑猥の音曲歌詞の取締に關すること
- 一 船車中の乗客の心得方に關すること

一 公共物を粗略に取扱はざること

一 祝日祭日を重んぜしむること

一 迷信を止むること

▲家庭に於て矯正すべき事項

- 一 兒童に卑猥なる小説を讀ましめざること
- 一 兒童を芝居見物に伴はざること
- 一 兒童教育を學校に一任する弊を矯むること
- 一 共同的娛樂の趣味を獎勵すること
- ▲學校に於て矯正すべき事項
- 一 學生の出入する文房具店等の弊を矯むること
- 一 學生家庭の事情を詳知し個人的訓育の資料に供すること
- 一 學生間に於て正常なる制裁力を養成すること
- 一 寄宿舎に於て趣味の養成に注意すること
- 一 學生服は絹布を禁ずること

一頸巻を廢すること

●愛國婦人會の光榮 愛國婦人會が今回の臨時大

勅祭に際し委員を助けて參拜遺族の接待に努めし

に付野津委員長より長き邊りへ奏上に及ばれし處

特別の御思召により同會々長以下評議員幹事、支

部長等六百餘名に對し九日赤坂、濱兩離宮の拜觀

を許させられたり尙ほ來二十日開催の同會大會

場所として新宿御苑拜借御許可相成たりと

●感ず可き亡夫人 工學士菅原恒賢氏夫人祐子は

去月五日逝去せるが、遺族に遺言して、各所の公

共慈善の團體に、一千五百圓を寄附したり。其内

譯は金五十圓聖書學院、金五十圓鎌倉腰越育兒院

金百圓四谷小學校、金百圓四谷區教育基金、金百

圓淀橋小學校、金一千圓岩手縣一の關瑞川寺、金

百圓明治女學校の由なり明治女學校は同夫人の母

校なる由、在校中の德育流石に仇ならずと云ふ可

きか。其菅原氏に嫁するや、能く舅姑に孝養をつ

くし、是迄の見得も姿も振り棄て、専ら家事の

整理に努め、其間月々良人より與へらるゝ二百圓

宛の金子を節約し、他に臨時の收入をも合せ貯蓄

し、或る額に達するを俟て、豫て理想の小學校を

創立して公益を計らんと、开を樂みに頗る熱心に

蓄積せしかば、却つて他より兎角の非難を買ふこ

と抔あり、斯くて十餘年間の辛苦を経て漸く多額

の金圓を準備し得たれば、愈よ事業創立に着手せ

んとせる折しも、好事總て魔多しとか、豫て兆せ

る腦病革まり數年來病褥に呻吟の不幸に陥れり、

されど一日も早く平癒して夙志を果さんと、日夜

そのみ苦しめしが、不幸にも三男達也(一)は去

三月四日死亡せしかば、最愛の兒を亡ひ悲哀の感

に打れて、病勢いや増して悪しく、良人と三兒を跡に殘して、此世を辭し去りぬ。斯くて學校設立の目的のため、蓄積せし多額の金は、祐子が遺産として、其の生前の意志に叶ふ方法に使用すべく、目下良人に於て考究中の由にて、此處遺言に依り寄附せし千五百圓は遺産以外別途の支出なりと、最も感すべき話ならずや。

●お伽演劇 近來兒童を樂ましむる趣意にて種々の會合行はるゝに至りたるが、婦女新聞社にては其の六週年の紀念として左の通お伽演劇を催せりとす。

- 一、脚本 久留島武彦氏新作「蛙三の笛」
故尾崎紅葉山人作「非常報知」
- 一、劇場 本郷座
- 一、俳優 藤澤淺二郎高田實一座
- 一、時日 五月十七、十八、十九日午後四時開場

●横濱保育研究會 横濱市在住の保母諸姉及有志者相集まり、今回標題の如き團體を組織し、去る四月廿八日其發會式を舉行し、女子高等師範附屬幼稚園主事村五六並に教授東基吉の兩氏及び牧野清子の演說あり、出席者百數十名にして頗る盛會なりしと云ふ。而して出席者の大部分が幼兒保育熱心の有志婦人なる由を聞くに至つては斯業のため快心の事と叫ばざるを得ず。吾人は該會の永く益々盛ならんことを望む。

●私立幼稚園の出征軍人幼兒保育 別項にも載するが如く、私立福岡幼稚園主事萩野ヒサ子は戦役の起ると共に出征軍人の幼兒に限り、保育料を免除して入園を奨励し、遺族を救ふの一端とせしが中には往々衣服其他の需用品に乏しくして退園するもの多きを見て、遂に右等需用品の給與方法を

けいやくし、百万奔走して、同地の有力者有志者の賛助を得、或は遺族の救助、或は幼児の收容に努めたる結果、同年七月には三十三名の幼児を收容し、今日に至る迄全く獨力を以て之を繼續せられしが、今回同地の重要な人々評議員となり、婦人会其他の公共的団体も一致して之を助け永く之を繼續することに決したりと云ふ。吾人は誠意を以て該園主荻野ヒサ子氏の忍耐成功の勞を謝するものなり。

私立福岡幼稚園の經過

左の書簡は該園主任保母より客員東教授に宛て報じ越したるものなり参考となる可き節もあれば本誌に載録せり

當園は明治三十六年九月、福岡市の中央なる或る寺院を借り受け不完全ながら諸種の設備を爲して創立致し、先づ百二十名の幼児を募集し、該月十日開園致しましたが、開園當日已に満員いたしました。然して猶其後も續々と入園申込者が多くて謝絶するに困りましたか、保育の任に當るものから見ますと、是非謝絶せねばならぬために、一時は定員外の入園を拒絶致しました處が、拒絶され

た父兄の感情より少しく事業の發達を妨げらるゝ傾向が出来て來ましたから、準備を増設して、又三十名を募りました、是亦満員しまして、猶續々と入園を申込むものが有りましたから、遂に百七十名迄入園させました、扱、創立の際いまだ秩序が立て居ないに、御承知の通り自分の名さへ知らぬ幼児を、百七十名と云ふ多數迄、入園せしめ、保母は如何にと云ふに、實に名ばかりの保母にして、保育と云ふ六ヶ敷事は知らぬ私が、覺束なく主任として有り、外に雇ひ入れしは休職小學教員と、全く經驗なき助手二名と、都合四人にて、保育を仕様と云ふ、最も大膽な、最も危險な組織でありますから、其困難は實に非常なものであります、實際保母自身が、満足な保育を爲したと思ふ日は、一日もありませんでした、只助手の人々に、起業の易くて成功の難きを諭し、熱心と忍耐とを以て、研究に研究を積み、慈母の心得を以て、任に當られよと、先生の御著書等與へ保母及助手を監督し、中心に立つて責任を負つて居ましたが、中々甘く行きません。種々苦心の實際事業が起つたものですから、教育家の方面から參觀に來られますし、保育熱心の家庭からも見に來る、而して此等の人は、私等の事業がまだ乳臭き赤んぼうであると云ふ事は措きて、完全なる理想に照して批評せられ、甚しきは中傷的惡評迄送らるゝ方もありました。茲に至て上流の家庭にては漸次退園者も出来る様になり、教育者に於くも余り必要で無い様な説が出て來ました。素より創立者及び主任保母に於ては、當地保育の有様に就き感ずる處有て、永年の宿望を成立させた今日故、多少の攻撃は、起業者の眞藥として受けて居る位の有様で、覺悟の上でありますから、怪

しみせず、只其悪評の起りたる原因を改むべきに勉むるに如かざるを知り、茲に規模を縮少し、外に一園を設くべき必要を感じ乃ち翌年避暑休暇中、園長は博多なる二三の有志家に計りたるに、大に賛同せられました。博多は御承知の通り商業地にして全市舉て商家ばかりなれば金銭の纏り附易い方であります。此等二三の有志家は非常な熱誠を以て盡力致されまして。忽ち博多婦人會なるものを起されまして、一方には有力家に寄附を募られました。其結果翌三十八年三月博多幼稚園と云ふ名稱の下に成立致しました。此成立と同時に我幼稚園は少しく市の西方に位置を變更し博多部幼児を悉く博多幼稚園に入園せしめ。創立當初より猶私方より園主と園長を兼ねて居ましたが、幸に博多幼稚園は二三の有力なる熱心家が世話をしてくれまから、本年四月私方は辭職いたしました。後任には同地尋常小學校校長兼務して盡力して居られます。

福岡幼稚園にては事務局中別紙報告書の通り、出征軍人の家計困難なる家庭の幼児を保育しましたが、是れは時がよいのと、一方に其父が忠誠なる働をして居るのとで、非常に一般の人より厚遇を受けまして、本年四月よりは市有大建物を市尙武會より貸與せられ、市内各學校には引續き評議員として盡力され、愛國婦人會より補助金を得る様になりまして、正確に經續する事を得る様になりました。左に經過の略表を御一覽に供します。

當市保育發達の略表

創立年月	私立福岡幼稚園	私立博多幼稚園	私立福岡市軍人 幼児保育所
明治三十六年九月	全三十八年三月	全三十八年五月	公然成立 三月十七日
年 度	在席幼兒數	全	全
三十六年度	百七十名	全	全
三十七年度	百五十名	全	全
三十八年度	七十名	百二十名	三十二名
現 在	七十名	百 名	二十七名

現時當縣下保育の發達

私等が幼稚園創立の當時は、前に述べました様に教育者中の多くは、不必要と認められて居ましたが、是れは全く其當時私等の幼稚園の組織及保育の方法を誤て居たもので、ツマリ我幼稚園より不必要と云ふ感じを與へたもの、様に思ひます。今日では一般に保育志想が進まして教育者側にも稍必要と唱へられる様になりました。目下郡部に於て新設計畫中の者が二ヶ所已に新築に着手し開園して居る者が一ヶ所、猶炭礦地方にては礦主の家等にて家庭保姆の要求をせられて居る等、實に將來有望な有様であります。目下計畫中のものにて最正確なるものは縣下久留米市にして實に正確強固なる組織であります。それは同地にて有名なる星野房子女史が非常な熱誠もて盡力されて居ます。然して同地教育會に於て計營中でありますが、女史は創立費の全部と保姆養成に關する學資及漸次維持費をも支出せられる事となつて居るかの様に聞いて居ります。

又大牟田なる炭礦地にては、目下建築中で有つて、設備しつゝ開園はされて居る由、今は幼児二十七名にて猶募集中と當園へ通知

が有りました。

以上の發達は斯業の爲め實に悦ばしい次第であります。眞保婦養成の方法が、極々必要な急務と思ひます。是れは是非先生方に御計畫をお願ひ申します。私今日に至て常に考へて居ります。此發達は實に悦ばしい。然し保育の進歩を計るべく一般家庭の慈母の保育志想を養成すべき方法を設け、(何々會)一方には確實強固なる財源を作るべく勉め、以て斯業を永遠に維持し、増々隆盛ならしめん望でありますが、中々私立と云ふは、困難なもので、世の進歩に伴ふて時運を待つのみであります。

申上る必要もなき様で御座いますが、實に私の幼稚園は設備不全で、一見物置然として居ます。是れとても仕方が御座いませんと七十名の幼児の保育料で維持して居ますのですから。而して借家料を出して有給助手を使ひ、小使を使ひ、保育料は三十錢と、(所得税金を納むる生徒の家が)六十錢の保育料で、貧民は保育料免除、二人在園の弟は半額と云ふ取り方、(是れは少し考へが有つて)寄附は一切現品の外受けず、全く獨力資を投じて、今日迄維持して居ますから、誠に困難である代りに、非常に愉快である場合も有ります。是れに昨年は軍人幼児を保育しましたから、其節は實に身心共に勞れを覺ゆる程、困難いたしました。しかし今日の結果を得て、昨年今日の困難より以上の愉快で有ります。價値なき文句を晝連れ甚失禮いたしました。先は日頃の御引立に依り三年間の結果を述べて聊か御盡方に酬ゆる志を御讀み下さいませ

私立福岡幼稚園主任保婦

五月八日

猶熱誠もて斯業の爲め盡さん考へに御座候得ば何卒御見棄なく御引立被下度願上候

東基吉先生玉机下

▲日本帝國の富力と其の一人當り 明治三十五年より同三十七年迄の材料に依り或筋にて調査せし本邦の富の總額及び其一人當りは左の如しと云ふ

土地	六、〇二三、七七一、〇〇〇
建物	一、九六二、三六三、〇〇〇
家財	九七六、三〇〇、〇〇〇
鐵道	二八三、一二七、〇〇〇
商品	二八九、八五五、〇〇〇
地金屬	五八、五七八、〇〇〇
雜種	三、四二六、八一三、〇〇〇
合計	一三、六五〇、八〇七、〇〇〇
一人當國富	二九〇、四三五

新刊批評

▲「明治の婦人」 毎月一回五日發行

一冊定價八錢 郵税五厘

發行書肆と行き違の事にてもありけるか、二ヶ月許り休刊の後今回再び生れ來りぬ。表紙繪麗はしく口繪頗る眞面目なり、其内容はと見れば初刊あたりのハイカラ的文學的材料は餘程減じたる代りに、極めて眞面目なる家庭的材料を増しぬ希くは健全なる發達を望む。(發行所東京市四谷區内藤町一番地ろノ十八號明治の婦人社)

▲みづ畫、毎月一回三日發行一冊郵税共拾八錢
水彩畫の普及を計る月刊美術雜誌にして、每號極めて精巧なる石版繪はがき二三葉を挿み、且附するに眞切なる説明を以てし初學者のために

指導を與へたり。其他三宅克己外數氏の寄稿及び講話などありて斯道熱心の人には最良の好伴侶なる可く畫かぬ人とても繪はがきを求むるによかる可し。

▲家庭女學講義 毎月一回三十日發行一冊金拾錢
本誌は家庭婦人界の一女丈夫羽仁もと子女史の編輯する處にして二ヶ年を以て女學の全部を完結する様、一定の豫案を立て、題目毎に夫々適當なる名家に委嘱して講義せしめたるものにして、第一號には浮田和民加藤照磨等の諸氏見ゆ。平民的に家庭學の一般を知らんとする人には最も適當なるものなり。

▲女子時事新聞 毎月三回五日發行一部金五錢
全紙悉く女子の手に成りし婦女新聞的八頁のもので其發行の辭に曰く

世運の進むに伴ひまして、近時女子に關する新聞、雜誌、著書と、中々澤山に出版されますが、大抵は男子の手によつて出来ましたもので、女子自身で致したといふのは、殆んど皆無の状態ですが、女子は言論の機關を自ら能く經營し得る能力が無いのでしょうか、思ひますに女子を知るものは矢張女子に如くはなからうかと存じます、隨ひまして女子に關する問題は、女子自身に講究し解決すべきものでしようと思ひます、男子の女子問題は動もすれば臆測空斷に流れ勝ちにて實に遺憾な次第で御座います、然るに女子は自己實際の境遇に鑑みまして、言論しませますゆへ、其適切なるは、必らずしも智者を俟たずとも、瞭然だらうと存じます、
 以て其抱負を知る可しです。論說あり雜録あり

五十二
 女學校だよりも詳しく一針録も面白し、

▲日曜讀本

東基吉著
 弘道館發行

定價金拾五錢

其名の如く日曜などに兒童の要求する讀みものとして現はれたるものにて、不知不識の間に兒童の興味を導きて地理、博物、理化學に關係せる卑近の知識を得しめんとて、種々他方面に亘りて面白く物されたり。家庭への土産物や父様母様よりの御褒美用として至極適當なるものと云ふ可し。

▲東亞之光

毎月一回 日發行 弘道館發行

新雜誌の發行せらるゝもの近來頗に其數を増したるが其中にありて多少異色あるものを東亞の光とす。蓋し軌近精神問答の勃興に際し是が解決を期すと云ふ。主張の本に生れたる帝國文學的の雜誌にて博士井上哲次郎氏之を主幹すと云ふ。

● 世論 一般

▲ 衛生學的筋癢たる淑女

無學な我には、「窮癢たる淑女」など申す六かしい字義の如何は、固より知りませぬけれど、兎に角之を我流勝手に解釋すれば、「身も心も美しく、それで何となう奥床しい所のある善い女」といふ義ではありますまいか、果して然りとせば、眞に衛生を實行する人の、必ず其域に達せらるゝは言ふまでも無いと思ふ、然れば左に其次第を列記して見ませう。適度の運動——頰は瘦せこけて、四肢は火箸の如くに細く、肋骨は一本々々透いて見ゆるやうな身體、又はテブ肥りに肥つて、鼻は謙遜、眉は傲慢、腿は臆擗するといふ如き姿は、兩者何れも醜いものではあるが、併し斯うなつた理由を、一々穿鑿して見ると、適度な運動を怠つた事が、大なる原因を作つてゐるのである。滋養食物——適度な運動をしてゐても、滋養食物の供給が不足、又は過多なれば色艶の悪いコセ〜したる皴膚にならずんば、脂肪沈着して、これ亦テブ肥りになる

ものである。

光線と空氣——滋養食物を取り、適度に運動してゐても、太陽の光線と、新鮮の空氣とに觸れぬ人は精神沈鬱になるのみならず、身體の發育も亦妨げられ、窮癢たる姿とはならぬものである。

沐浴——沐浴を怠る人は、種々の皮膚病を發し、玲瓏たる肌とならぬは言ふまでもなく、様々な病氣も起るものである。

早寢早起——「蚤に起き夜に寝ぬよ」と、昔より東洋の學者は教ふるけれど、これは野蠻な習慣で、爽快なる精神は太陽に依て興奮せらるゝものなれば、夜は何事もせずに可成早く寢れ、太陽の地平線上に上るを度とし、衾を蹴て起れば、身心共に活々として筋癢たる淑女となるの第一着である。

惰斯う述べ立ると、唯身體上の發達を論じたばかりの如くに有るけれど、決してさうではない、彼の僻根性・嫉妬・虛榮心・沈鬱・不性などの惡徳は大抵ヒステリーの女の女に有つて、其のヒステリーの的は元來腦や子宮の故障、月經の不順等から起るものなれば、眞に衛生をさへ實行せば、身も心も自ら美しくなること疑ふ可からざる眞理である。

更に繰返せば、眞に衛生を實行すると筋骨瘦せもせず、テブ太りもせず顔や肌の色も艶々として滑かに、髪は黒々として濃く、脊は曲らず、齒は白く、眼は涼しく口元締り、精神は愉快になつて物に倦まず、記憶は強くなつて知識進み、清潔秩序の二徳は自ら備り、怒らず卑屈ならず何時もニコニコと其良人に對すれば、之をこれ窮癢なる淑女と言はずして何ぞや、彼の朝寢・夜深・間食・不運動・唯一室にのみ閉籠勝の娼妓藝者は其始美なるが如くにあつた者も、次第に姿形も卑しくなつて、遂に見る影も無き捨弱となるは人知るや知らずや。されば容貌美ならんと欲せば衛生を實踐し給へ、精神美ならんと欲せば衛生を躬行し給へ、嗚呼筋癢たる淑女は君子の好遊（丁）

（愛國婦人）
▲ 文部大臣 は女子大學の卒業式に臨み女子教育に關し演説せり左に記するは其一節なり。元來男女は性の異なるが如く其本分も異り従て教育の方針も異らざるべからず女子の教育は其本分なる良妻賢母を作るにあり然るに動もすれば女子に教育學問の必要なるを誤解して女子と男子と同じく學問によりて社會に立ち獨立の事業をなすな

最上の目的と心得るものあり女子も特別の事情あるものは例外なるも一般の本分としては人の妻となり母となりて家政を司り或は子女を教養するとは古今東西同じ歐洲諸國にては生活の程度高まりたる結果として婚姻し能はざる子女多きを來せり此等の女が獨立して生活する専門の職業を求むる有様となり又教育の普及と共に學問技藝を以て世に立つ例外者も出でたり執れにもせよ特別の例外にして一般の標準となすに足らず余は一概に女子に技藝職業を教ふるを非認するものにあらず婚姻を妨げず又結婚後も従事し得べき技藝職業を授くるは必要なり歐米には前述の事情よりして獨立して専門の職に従事するものもあるもその事情なき所に此標準を以てせば教育の結果却て女子を意外の不幸に陥らしむるも知るべからず教育者間には斯る間違のなからんも例外なる女の學者又は事業家が出れば自然世間にて賞譽し又新聞紙の如きも之れを歓迎すべし如き有様なるより妙齡の女子が本分を拘れ學問事業を目的とするに至るものなしとせず教育に従事するもの深く此の弊の矯正に勉めざるべからず

▲女學生と氏名 在來我國にては一般に氏名の文字を輕視せしが女子氏名の文字の亂用殊に甚しく、各學校にて生徒の氏名を書込む際、名前の判然せぬもの至つて多く常に混雜を來すといへり、例令はリク子といふに陸子、利久子等種々ありて一定せず、又文部省の檢定試験受験者中願書に記したる名と戶籍の謄本寫と全く異なるが多く實際を言へば今時の女學生に對つて貴女の名はど書きますかと質問して、夫れに確答し得るもの殆んど一人もなしといふことを得べく、此程も某女學校の卒業生にて何々千代と云へるあり、某紳士と結婚しイザ戶籍の轉送となるや、何々ツヨと謄本に記しある爲め、縁談に故障を生じたる奇談もあり、女子高等師範の助教授に矢田部ジュンと云ふ人あり、女子英學塾の英語教師に矢田部順(矢田部理學博士の未亡人)と云へる人あり、前者往々にして漢字の順を用うる爲め、人は兩婦人を同一の人と思ふことあり、かゝる例は敢て珍らしき事ならねど、要するに自己の名前を判然と書く

(教育時論)

▲誤認されたる青兒

(醫學博士緒方正規氏談片)

牛乳は其需用年一年に増加して今や寒村僻

地にも之が供給を見るに至りしは大に喜ぶべき事にして尙ほ益々之が飲用を奨励すべき也然れども乳兒の養育に母乳よりも牛乳の方が優れる如く誤解して態々母親の乳を興へずこの牛乳を用ゆる者少からず之れ甚だしき非がことに於てボク氏の統計によらば其死亡數は母乳養育に比して十七倍の多きに達せり故にウルツカルトナ等の諸氏は説をなして(一)哺乳は反つて産後の肥立をたすくると(二)母乳にて育てる小兒の滿一年に達するものは牛乳其他の人工營養に比して九倍の多きに居ること(三)發育不充分の小兒は母乳ならでは助かる見込なきこと(四)哺乳兒は三時毎に左と右の乳房を交互に與ふること(五)授乳は生後六ヶ月以上九ヶ月迄を限りとし其以上は哺乳の必要なきこと(六)乳を離すには暑さの砌りを避け且つ漸次に他の食物を與へ母乳と交換すること(七)母乳不足の場合にも有りたけの乳を興へて不足だけを他の營養物にて補ふこと(八)母乳の得られざる時初めて止を得ず不充分的な代用品中上位を占むる牛乳を用ゆべきなれば異物の混和せざる全乳を撰び充分の消毒を行ひて後之を興ふること云々とあり之に鑑みては乳兒の養育には母親の乳を第一とし次いで乳母の乳を求め若し之を得られざる場合には始めて牛乳を攝取すべきに有りあまる母の乳をも廢して牛乳營養をなすは寧ろ咄ふべきの誤認とすべし

(婦人衛生雜誌)

會 報

會費領收 自明治三十九年四月廿七日 至全 五月廿一日

金額	年	月	日	姓 名
七〇	三	八	一	大平みち
一五〇	三	八	二	木村寅枝
三〇〇	三	九	一	市川源三
三〇〇	三	九	一	水口みつ
三〇〇	三	九	一	前野とき
三〇〇	三	九	一	三島つる
三〇〇	三	九	一	西村きしえ
三〇〇	三	九	一	羽田幸
一〇〇	三	八	一	金子きた
四〇〇	三	八	二	近藤とよ
五〇〇	三	八	二	堺いそ
三〇〇	三	九	一	野津敏江
三〇〇	三	九	一	佐藤つや
三〇〇	三	九	一	三田利徳
三〇〇	三	九	一	古市静
三〇〇	三	九	一	大野朝比奈
三〇〇	三	九	一	池袋すが
一〇〇	三	九	三	關根むつ

一〇〇	三	九	三	瀧山幸
五〇〇	三	八	一	大山千代
三〇〇	三	九	一	武藏とめ
三〇〇	三	九	一	藤並京
三〇〇	三	九	一	小向きみ
三〇〇	三	九	一	神津どん
三〇〇	三	九	一	桑田龍
三〇〇	三	九	一	加藤たけ
三〇〇	三	九	一	武田まつ
三〇〇	三	九	一	鳥居しげ
五〇〇	三	八	一	勝田すみ
四〇〇	三	八	二	伊藤いつき
一〇〇	三	九	三	近澤岩吉
三〇〇	三	九	一	小林儒
三〇〇	三	九	一	片桐くら
三〇〇	三	九	一	上遠野あい
三〇〇	三	九	一	福田ふく
三〇〇	三	九	一	佐久間えね
一〇〇	三	九	三	馬場庸
二〇〇	三	九	二	古市幸
三〇〇	三	九	二	太田よね
三〇〇	三	九	一	吉武しょう
三〇〇	三	九	一	藤村いと
九〇〇	三	八	七	松島八重

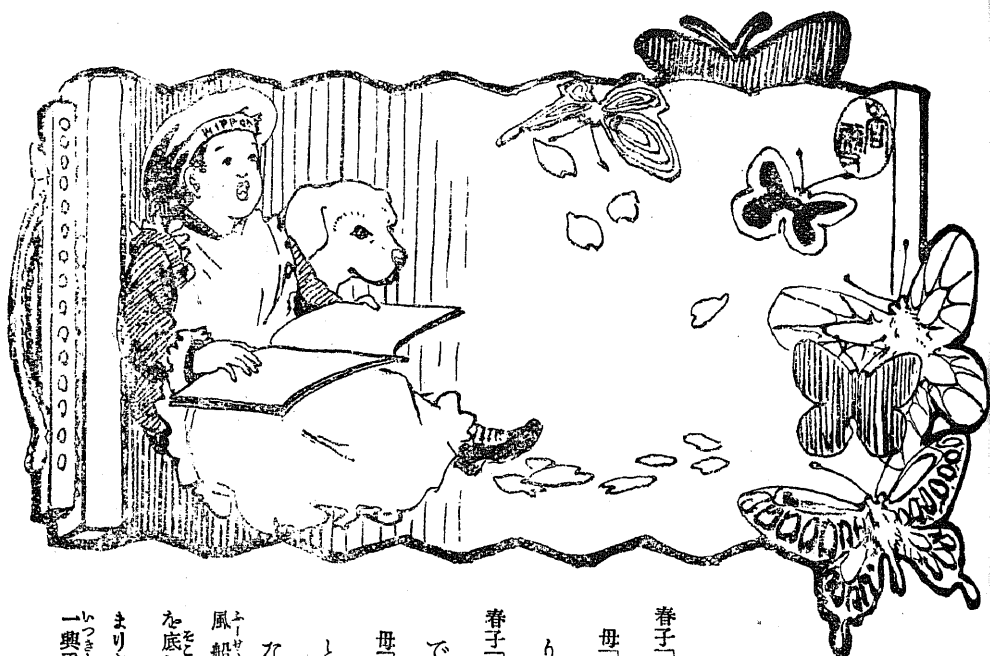
五〇	三〇	一五〇	三〇	三〇	三〇	三〇	七〇	三〇	三〇	三〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	一六〇
三九、四	三九、一	三八、二	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三八、九	三九、一	三九、一	三九、一	三九、三	三九、三	三九、九	三九、三	三九、三	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三七、二
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三九、三
三九、八	三九、三	三九、四	四〇、一	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三

岩崎	瀧川	窪田	岡田	橋本	箱石	石井	池邊	滿岡	清家	永地	柳井	岩崎	福田	吉田	前田	中島	樺山	羽田	近藤	寺尾	川村	利光	山崎
か	れ	八	千	は	孝	國	千	さ	寛	待	つ	こ	あ	幸	捨	行	常	由	は	き	太	し	彦
花	ね	重	代	な	藏	次	東	よ	二	枝	る	ま	い	松	德	常	由	ま	く	郎	づ	八	八

九〇	七〇	五〇	三〇	二〇	一〇	五〇	三〇	五〇	一〇	一〇	二〇	三〇	五〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	二五〇	一二〇	一〇〇	一〇〇	六〇	一〇〇
九	七	五	三	二	一	五	三	五	一	一	二	三	五	二	一	一	一	一	二	二	一	一	六	一〇
九	七	五	三	二	一	五	三	五	一	一	二	三	五	二	一	一	一	一	二	二	一	一	六	一〇
九	七	五	三	二	一	五	三	五	一	一	二	三	五	二	一	一	一	一	二	二	一	一	六	一〇

自四月至五月、
自四月至八月、
自四月至七月、

小村	阿部	柳原	寺尾	齋藤	脇山	藤江	藤川	西川	岩崎	窪田	岡田	木村	大平	菊地	鈴木	石津	石津	阿部	小松	柳原	寺尾	齋藤	脇山	藤江	松岡	西川
ま	部	英	は	藤	山	江	川	川	崎	八	千	寅	み	り	こ	まつ	まつ	部	す	英	と	鹿	ま	富	岡	川
ま	部	英	は	藤	山	江	川	川	崎	八	千	寅	み	り	こ	まつ	まつ	部	す	英	と	鹿	ま	富	岡	川
ま	部	英	は	藤	山	江	川	川	崎	八	千	寅	み	り	こ	まつ	まつ	部	す	英	と	鹿	ま	富	岡	川



風船虫

春子「お母さん、風船虫買って頂戴な。」

母「風船虫、あゝ買って上げませうかね、けれど買ふよりも取りに行きませう其方が面白いよ！」

春子「あら、母さんそを!? ぢぢ取れますか、何處に居るんでせう? 直行きませう、さあ。」

母「ハイ、夫れでは行きませうから、籠と古い空き罐とを持って御居でなさい、夫れから田圃へ落ちるといけないからよく氣を付けてお居でなさい」

風船虫は時々夜店で小瓶などに入れて賣つて居ます、小さい赤や白の切な底から引き上げる處が一才面白いです。是は田圃傍の水溜まりなどに居る小さな虫ですから小供衆の御慰みに一寸採つて上げるのも一興でせう。

福鼠寶山入

この御伽草子は、十返舎一九のものせしにて、文化酉どしの板なり、ことし八十になれる父のいとけなかりしをり。人よりたまはりて、もたりしを、さる宿世やありけむ、家の火災にかゝりしをりにも焼けのこり、水災のをりにさへその災をのがれて、親族の子共が行きぬたることもあり、轉々多くの手をへて、我が幼時のもてあそび草となりしものなり、同じやうなるが五六巻ばかりあれど、金太郎桃太郎の巻などは、ふのれ夏の日の水遊にもちいでなどしけるをり、いたく損ひやぶりたれば、今は其の筋をだにたどるによしなし、たゞ此の一篇は其の中のや、全きものにて、文字も繪も白鼠さだかなれど、もと月齋がゑがきし繪本にて、詞はそのときわかしたるを、かく其の繪をはつか鼠はつかにあぐることゝなりては、詞をも省きたるあり、従ひてその興味も十の一になりにたり、されど、此度何をがなとの御ちう文のまに、猫の爪かく傳はりしといふをかごとにて、凱旋の御祝かたく、世の幼き方にまゐらせんとて、さながら送りまゐらす、何のことゝしう、いらぬちよつかひを、と人の見とがめ給はんも、そは猫の目も、とまれかくまれとてなむ、

むかしく、大黒天王甲子の年、家内に野良猫住みて數多の他の
野良猫どもをかたらひ、手下となし、屋根裏天井を徘徊して、鼠
をとりなやますこと夥しければ、大黒天王の仰をうけ、棚元糊舐
公(源頼光)といふ白鼠、家臣、綿上砂(渡邊綱)酒樽栓拔坂田金時(裏壁
崩竹)占部季武白杵がたつき(白井定道)を集め、猫退治を評議する、
(おたつき)ゆふべも見ますれば、しぼりの浴衣で、蛇の目の傘をさして
猫じやくといつて、あるきました。

(くえたけ)臺所へいつて、何ぞちつとひいてござれ、すこし腹がさみし
くなつた。

(秘)お互に、子共を澤山もつてをるから、心づかひでなりませぬ。
棚元糊舐公の姫君、夜ふかく餅花の花ざかりに、腰元あまた引連れ

て、出かかけける
 所に、かの猫が手
 下の野良猫ども、
 これを見つけて
 「親方の所へひつ
 びらへ」といふ程
 こそあれ、やに
 ほに、姫のうち
 のりたる枕の乗
 物を奪ひとり「エ
 イかでくヤツ



四
 チヤイコレハイ
 サ」とひつかつぎ
 て、にげいだし
 けり、
 (供侍の鼠ねずみとる猫爪ねこつめ
 をかくす、との
 たとへの通り、
 油断ゆだんは大敵たいてき、
 エ、残念ざんねんな、
 あとの一杯いっぱいを
 飲のまなんだら、

よがつたものを、脚がひよろついて、かなはぬく。

又其の頃臺所の竈の中に、おなじ手下の虎班の猫住みて、往來の鼠をなやまし、其の上竈の中を小便だらけにする故糊舐公、綿上砂をめされ、小便無用の札を立て、歸るべし、との事なりけり。

(細なめ公) ちヨイトひつかゝれぬやう、此の札を立て、早く逃げて戻るがよい。

(砂) さやう致しませう、ひよつと私が猫にとられましたら、かゝあめを後家に致すが、残念でござります。

さて、砂はその札を竈の灰の中におしたて、歸らんとする所に、竈の中より、さもおそろしき虎猫ぬつといで、ちよツかひをいたして、鼠をひつつかむ、砂その手をとりにきりはらひ、ちよツかひ

をもちてかへる。

虎猫は俄に不自由になり、仲間には「手のない奴だ」と笑はるゝを悔しがり、何とぞちよツかひを取りかへさんと、綿上の伯母になりて、綿上の邸にきたり、猫のちよツかひを見たきよし望みける故、綿上出だして見すれば、そのまゝとつてひねくりまはし、「ちよつくらちよツかひ、これをもつておいとま申す」とそのまゝかけたし、一目散ににげて行く。

糊舐公之をきこしめして、残念におぼしめし、やがて四天王の鼠どもと相談あつて、大屋根にすむ野良猫はじめ、手下の猫ども残らずうち滅さんと、各婆をやつし、はりをつたひ、棚をよちのぼりて、大屋根さして赴きける。

(甲鼠) 煤だらけで、すべるはく、これく節穴がある、氣をつけさ
つし、けがをするぞ。

(乙鼠) しつかりと頼むぞ、よいかく、

(丙鼠) これへとツつらまつてきさッし、おッこちると、水がめの中
だ、しつかりさつせへ。

道すがら、大黒天王のおはします神棚へ参りて、またゝびをさづ
かり、これにて猫をうちとるべしとの御つけなるゆゑ、みなく
喜び、やがて窓より廂へかゝりけるに、若き女鼠の、着物を樋竹
の流れにて洗濯せるがあり、これに様子をきゝて案内せさす。

(すな) 野良猫のすみかは、かすかにみゆる大屋根の上だな、よし、
此の女鼠も、野良猫にとらはれとなりたるにて、此のてあひの話を

聞き、大きに喜び、やがて大やねの猫の住處へ案内してつれゆく、

(女鼠)むかうでござ

ります。

(すな)ものほしに野

良猫ども、日

なたぼこして

ゐる、あそ

こたく、

(くえたけ)どれもく*

り、爰に一宿し、またゝたびを酒にいで、野良猫にすゝめけれ

ば、喜びて大あはびの貝にて酒盛をはじめ、眷族どもみなくたべ



* くらひふとつ

て居るな、

(物干の猫)ア、鼠くさ

いく、

かくて、四天王

の鼠ども、大屋

根に至り、旅の

修行者なりと詐

惹ひて、しやれちら
 しける、しかる處
 また、びを入れたる
 さけをたらふく飲み
 たることなれば、皆
 ヤたわいなくなりて、
 目をとろくとし、
 涎をながして、餘念
 なきところを見すま
 し、皆ヤ仕度して、
 遂に猫どもを退治け



り
 (野良猫) エ、無念々々、
 にやんまみだぶつ
 く、
 (鼠甲) こいつ皮をひつば
 いたら、三味線の
 ひとつもはれやう、
 (鼠乙) おのれ思ひしつた
 か、にやんとでも
 いつて見ろ、
 (鼠丙) ねこといはずと観

念ねんしろ、

かく思おもひのまゝに野良猫のらねこそのほか眷族けんぞくども残のこらず退治たいぢして、其そのの首くびを車くるまに載のせて、もちかへりけり、これよりして家内かだい穢けだまかになり、大黒天王だいこくてんわうの御威光おんゐこうあらはれ、白鼠しろねずみども豊ゆたかにまもりて、その家榮いさかえけり。

されば、白鼠しろねずみども、この年としふりし野良猫のらねこをやすくと退治たいぢしたりしも、「大黒天だいこくてんの御おんかけ天祐てんゆうのいたす處ところ」と御禮おんらいまゐりに行き、おみきおそなへをあけて、御禮おんらいを申まう上げけり、

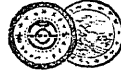
〔大黒天だいこくてん〕これからも、猫ねこがゐぬとて、ゆだんせぬやうにしやれ。

第五回國內勸業博覽會賞牌及褒狀受領

登錄商標



二五會評品會功等類牌



THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE
製煉トツレオイワウ
入器子硝白乳 附蓋錫
しろいお禮美壽

● 壽美禮 ●
おしろい ●



價定(大壺 二十錢)
小壺 十二錢
水製定(大壺 二十五錢)
中壺 十五錢
小壺 十錢
ツワイオレット水製

錫栓附乳白硝子壺入

すみれ白粉は 歐米諸國に専ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素新成績液體等を以て配劑しあるを以て肌を艶麗ならしめ香馥郁として長時間保続するの性あり『壽美禮白粉』は常に用て御顔肌へを清々しく天然の色白さに至るべし葦『ふしろい』は芳香馥郁と長く保つが故宴會、祝席、雜踏の場所に臨て衛生上有益無比の逸品なり『壽美禮白粉』は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

● 西洋 洗滌劑 壽美禮 ●
あらしひ粉の特性

● 綠藍、紅彩蝶番ハ ●
大袋 入二錢
入壹錢

● 弊舖製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に専ら賞賛する香料及弊舖新製の原料を用ひて處せしものなれば朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌を美しくしなす
● 常に髪洗ひに用ひ給へば髪の流れを取り油あかを生ぜず又白ふりハンカチーフ、絹綿等に用ひて能く汚垢を落す纏く物を漂白する性あり
● 使用法は普通あらひ粉の半分にて能く水又は温湯に溶し又はぬかに混ぜ入浴の際用ふるを良とす

登錄商標
白色なくあるら粉
SUMIRE
Washing Powder
壽美禮あらしひ粉



製造本舖

東京 東兩國
元町 兩國橋 際

壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工場劇場運動場に有り

數年難治の慢性胃病を根治し
消化機能を強壯健全になす 靈藥

胃病根治劑

從來世に胃病を患ふる者多しと雖も、皆一時の苦痛を以て、暫く制酸劑(即ち重曹、マダグネン、苦味劑)の如き一時おさむスカシ的靈藥のみにして、未だ嘗て根治的に其病の基因を斷つ良藥あるを見ず。本劑は獨一の高名大醫ノイテル氏處方に基づき、本邦胃病患者に通切なる最新有効藥を配合し、百万實驗其奏効顯著なるを確證發覺せし最も進歩せる完全なる新劑にして、數年難治の頑固慢性胃病に、本より誓つて根治し、消化機能を強壯ならしめ、食慾を催進し、便通を快くし、氣力を壯にし、精神を爽快活潑にする空前の完全最新藥なれば、從來種々維多の胃病藥を用ひて、効なく、多年病苦に呻吟せる患者は、一日も早く本劑を服し、病根を斷絶し、無病強健の大幸を得らるべし。輕症は壹劑重症は貳劑慢性症は參劑にて根治確證す。(藥價) 壹劑四拾貳錢 貳劑八拾錢 參劑壹圓拾錢 郵券代用貳劑増し

新論人肉 西白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發期劑にして、如何程色黒き男女にても特別製貳純白色に變化し、體美の容貌となる劑を用ゆれば、忍ら肉體、純白色に變化し、體美の容貌となる。多の色白藥を用ひて、奏効なき人は、速に本劑を試み、見よ眼前に峻烈なる特效を覺ゆ、眞に奇効顯著の確證新劑、價は並製金壹圓貳拾錢特別製金壹圓七拾錢

以上專賣元 東京市神田五日新館藥房
二藥 專賣元 軒町拾九番地

月やくおる

子宮病血の道を全治、惡血毒血を一掃するを確證す。但し本劑は其奏効種々峻烈顯著、無害なり。婦人諸君安心して試薬あれ、價は壹劑分七拾錢、貳劑分壹圓、參劑分壹圓七拾錢、特別製分貳圓參拾錢、大盛々怪しき無効(注意)本劑の名義に汗目し購求あらんとす。類似偽藥類はる用藥者は深く注意ありて「專賣元日新館藥房」



本劑は胃腸を痛めず、子宮を害せず、如何程長き月經閉止も必ず速に快通流

わきがが臭

根治確證 新發見藥

醫藥發見百方手を盡せし如何程誓て根治し、決して再發或は他種劇烈の慢性わきがにても、如何程長き月經閉止も必ず速に快通流す。重組的改良根治新藥なり、速に試み、苦惱を脱せよ。價は輕症根治分六拾錢、重症根治分壹圓、參劑分壹圓七拾錢、特別製分貳圓參拾錢、郵券代用必す、二劑増の事

以上專賣元 東京市神田五日新館藥房
貳藥 專賣元 軒町拾九番地

(電話下谷五四六番)

教育家の必讀書

▲ 晩近の新好著 ▼

醫學博士 瀨川昌著先生校閱
 福岡縣師範學校主事 織田勝馬先生
 長崎縣立高等女學校教諭 白土千秋先生
 合著



好評三版發賣

洋裝菊判形全一冊 (正價金六十錢 郵税金六錢)

近時教育に關する諸般の研究殆んど至らざるなし然るに獨り劣等生に關する根本的研究と之が救済法たる實際的攻究とに關し會て好著の公にせられたるものあるを見ず而も該問題に對する現今實地教育家の態度は宛も大早に雲霓を望むが如きものあり蓋本書は時運の產出物と見る可きものなり乞ふ左の條記に依て本書の價値の一斑を推知せられよ

△本書は先づ劣等生の意義を確定し之が救済上の教育的可能を論せり

△本書は劣等生に關する各種の原因を詳に探究し之に對する教育的取扱法を極めて實際的に説述せり

△本書は劣等生救済に關する教育的任務と醫治的任務との區別を明かにせり

△本書は劣等生救済法としての人格轉換論を説述したり

△本書は劣等生取扱法に關する諸方案并に特殊教授法及各教科目につき教授上の實驗的注意を詳述せり

詳述せり

東京區南大工町一 弘道館 發兌

好評嘖々たる遊戯書

廣島高等師範學校教師吉田信太先生作曲
廣島高等師範學校教師原藤藏先生作技

(好評六版發賣)

國定
讀本

唱歌遊戯教授書

洋裝菊判色クロス無類の美本
尋常科の部 全一冊 正價金八拾錢
高等科の部 全一冊 正價金八拾錢
郵税拾錢

▲讀め……唱歌遊戯教授に新光明を發はさんとする教育家は

▲讀め……訓育上、體育上、効果を顯はさんとする教育家は

▲讀め……戦後に於る勇健の國民を養成せんと教育家は

『教育新聞』批評の末項に特に編述の方法の慎重親切なる綿密の圖書數十葉を挿入して説明を補
け並に其目的効用及教授の注意を述べ更に各技に理論を附記したる等教授者の便利少からず今
や體操に關しての良著述あるも遊戯に關しては殆んど師とするものなき有様なる場合に當り教
員の好伴侶たるもの恐らく此書を外にして他に求むべからざるべし

後付の四

發行所 東京區南大工町一 弘道館

文部省視學官農學士針塚長太郎先生
帝國大學農科大學助手山崎德吉先生

共著

養蠶蠶教授指針

▲小學校教授用

針塚視學官農村の小學校に養蠶を課するの教育上及實益上極めて必要なるを感じ、斯道に精通せらるゝ山崎先生と共に本書を著して之を本館に授けらる本館又國家に盡すの微意を以て、全く營利を外に措き汎く其實行を望んで茲に殆んど實費の定價によりて發行するに至れり、記事平易にして簡明且つ多くの精細なる挿畫を挿み記事の足らざるを補ひたれば一讀に實行することを得べし、尙本書は獨り教師諸君の參考用に止らず農業補習學校乙種農學校或は講習會等の教科書として最もよろしく又獨習者の手引には殊に適當せるものと謂ふべし

菊判 形 全 一 册
寫眞版木版挿畫十數個
正價金 二十五 錢

發行所

東京市京橋區南大工町一番地

弘道館

算術教授の虎の巻

東京高等師範學校 校後藤胤保先生
 長崎縣立高等女學校 教諭白土千秋先生
 福岡縣立師範學校 訓導阿部清見先生

國定
 準據

算術教材資料

尋常科ノ部
 全二冊

合著

定價
 上卷四十五錢
 下卷五十五錢

後付の六

國定準據算術書の發刊頻々として出で寧其の數の多きに過ぎたるが如し然れども所謂每時配當の器機的教案なるものにして實地教授者をして自由に活用せしむるの餘地なく而も材料の選擇排列は趣味と嶄新とを缺けるもの比々是れなり本館茲に見る處ありて敢て著者の勞を煩はし本書を公にす實に優秀無比の好著にして雞群の一鶴たるべし今本書の『特色』の二三を擧ぐれば左の如し

本書の特色

- 一、教材は國定教科書との聯絡に注意し兒童に經驗界裡にあるもの及生活上必須の事項に求め勉めて興味ある事實をとれり
- 二、事實問題に於ける事實的數量は總て精密周到なる調査を遂げたるものなり
- 三、問題の選擇排列並に提出の方法は嶄新にして興味ある方法を攻究し兒童をして自ら計算動機の奮起あらんことを勉めたり
- 四、問題の提出は其の順序系統を精密にし前の問題は必ず後の問題の準備關鍵となり兒童をして知らず識らずの間に算法の階段新形式の中に進入せしめんとせり
- 五、本書を參考する時は教授者は更に自ら諸種の興味ある問題を作出すことを得應用極めて便宜にして自由なり

發行所 東京區南大町 弘道館

心の花

編輯主幹 佐々木信綱

第十卷 第六 六月一日發行

藤井文學士の『ミューンヘンより』は獨逸最近の藝術に就て談り八杉文學士の『露西亞文學』は氏が深遂なる學殖より成り小杉博士の『古今傳授』は中央歌學史の好資料其他沼波文學士の『分身』彌富氏の『不遇の歌人嚴足』佐々木氏新井氏の短歌石樽氏及全人の美文等を掲げ例に由て賑はし

毎月短歌課題あり、投稿を歓迎す、
定價郵税共一冊金拾三錢六冊前金七拾五錢十二冊前金壹圓四拾錢

東京日本橋區本石町一ノ一 竹柏會出版部

伊藤直一郎先生著

長壽論

菊判形全一册
正價金貳拾錢
郵税四錢

後付の八

世運の進歩に伴ふて社會萬般の事業日に月に複雑を極むるは是自然の趨勢なり隨て過度に腦力を使用するの結果不知不識の間に貴重の性命をして短縮ならしむるの感なくんばあらず著者大に觀る所あり慨然として本論を世に公にせらる苟も保身の術を全ふし大に天下に爲すあらんとするの紳士淑女よ請ふ一本を供へて以て座右の箴となし玉へよ

本書の特色

- (一) 冷水養生法、健腦法等の發刊頻々として世に出で寧其數の多きに過ぎたるが如し然れども多くは身體一部の攝生法に過ぎず本論の如きは敢て然らず篇中を分つて十二章となし無病長生の秘訣一として網羅せざるはなし在來坊間に行はる、普通の衛生書と其趣を異にする所以なり
- (二) 強肺術、冷水養生法の如きは著者十數年來の實驗談として詳叙したるものなればその價値の大なる知るべきのみ
- (三) 現在の長壽者一百人に就き飲酒喫煙の利害得失を調査し之が如何に長壽に關係あるかを統計表にて提示せり
- (四) 結論中全篇の補遺として簡明に長壽の秘訣二十則を掲げたり以て著者が如何に意を致すとの周到なるかを證するに足る

發行所

東京市京橋區南大工町一

弘道館

女子高等師範學校教授 東基吉先生著

新案

育兒日誌

洋裝美本紙數凡を四百五十頁
定價三十錢(總クローネ) (全二冊)
特製五拾錢(總 革) (全一冊)

● 子供の日記は我子の教育上無二の参考書にして又唯一の方針を示す。

● 子供の日記は我子の最初よりの完全にして最も信據すべき傳記なり。

● 子供の日記は我子の將來父母に對する謝恩の觀念を一層甚深ならしむ。

● 思慮ある父母は必ず子供の日記を記せざるべからずこれ我子に對する父母の責任なり義務なり。

● 育兒日誌は實に父母をしてこの責任と義務とを果さしめんが爲めに發刊せられたるものなり。

● 本書は東先生が從來我國に完全なる育兒日誌のなきがために世の父母が兎角子供の日記を記し行くを怠り

● 記入の方法の簡便なるが附録として兒童教育上衛生上幾日記の雛

● 形數とを添へられ子供ある家庭には是非とも備へざるべし

● 切文明的なる

發兌元

東京市京橋區南大工町一番地

弘道館

後付の九

文學士 北澤定吉先生著◎

再版

偉人耶蘇

洋裝 菊判
總ク ロース美本
全 一冊
正價 金七拾錢
郵稅 金八錢

神祕説に同情を有してしかも知識を輕視せず、基督其人を教仰して、しかも基督教徒たらず、専心哲學を究めて宇宙の繼を解かんと欲す、かゝる立脚地にある著者が、鋭き批評眼もて四編學書を精讀し、一人としての基督は如何なる儀表を與ふるか一てふ趣味ある問題を究めて、新しき解釋を基督其人に與へしは本書なり。基督の人格を中心として、基督教の倫理を説き、實踐道法を論ず。議論正大文章優雅、讀まば正さに基督を地下に起してこれと語るの感あるべし。先づ己自らを修養し、身を以て弟子を率ひんとする**教師諸君**は、本書に於て**好指導を發見**すべし。

發行所

東京市京橋區南大工町一番地

弘道館

近刊豫告

西山愨治先生編 (家庭の寶典)

日本家庭辭書

● 四六判形總クローソ
類ル美本全壹冊
舶來上等紙摺
紙數凡八百餘頁
● 定價金壹圓三十錢
内地小包料十五錢

▲製本出來期限六月下旬 ▲申込期限七月二十日

▲壹萬部限り特價九拾錢 (期限内ト雖モ滿數ノトキハ不得止正價) (ニ復スルコトアルベシ (小包料十五錢))

家庭問題は今に殘され社會問題とし戰捷後必然に社會の要求する時代急需の聲となつて世に出づる家庭向きの著書尠からず惜むべく多く一時的際物の零片を以て充即ち編西山先生此に周到の用意多大の苦心抱負を以本書を編纂せられたれば家庭に依て光明に浴し新し福音に接するも信ずる幸に世の流行的一夜作の駄編する勿れ。本書の内容は家庭組織、結婚制度、法律、道德、交際、交通、禮儀、教育、宗教、衛生、家具、經濟、行事、料理、裁縫、洗濯汚點拔、園藝、養畜、生花、茶道、音樂、遊戲等に最も家庭に必要なる粹を披千餘項を選択し五十音順に列し説明懇切有るも家庭に關し細大漏れず忠實なる家庭の顧問たるを即ち本書を家庭必備の寶典として一般の進物に殊婚出產の贈物薦め又教育に熱心なる各學校教育及學生諸君の備品として幸に購讀の榮を賜はらん (裏面ニ辭書ノ要目アリ)



▲日本家庭辭書要目▼



後付の十二

一、家庭組織、

二、結婚制度、

三、家庭行事、

四、家庭要具、

五、工藝品(織物、陶、漆器等)

六、家庭衛生(衣、食、住の衛生、沐浴、各機官の衛生、看病法。疾病、應急療法、婦人衛生、小兒衛生、)

七、家庭法律(出生、死亡、相續。婚姻、戶籍民法に關するもの)

八、家庭道德、

九、家庭禮儀(和洋禮式)

十、家庭交際(交際と修養及び交際の要訣等)

十一、交通制度、

十二、家庭宗教(神、儒、佛、耶蘇教、信仰と迷信等)

十三、家庭教育(知、徳、禮、美育、女子教育、精神的病弊矯正法)

十四、家庭經濟、

十五、家庭料理(日本料理、西洋料理)

十六、裁縫洗濯(裁縫、洗濯、汚點抜の心得)

十七、家庭園藝、

十八、家庭養畜、

十九、家庭娛樂(娛樂、生花、茶の湯、音樂)

二十、家庭遊戯(家庭に行はれ易き和洋遊戯)

以上二十項に分ち**必要なる項目千餘に亘つて懇切に説明を與たり。**

見本御入用の方は無代進呈す

發行所 東京市京橋區南大工町一番地 弘道館

法學士 笹川潔先生著

大觀小觀

菊判形金文字入
全一册美本
正價金四十錢
郵稅金四錢

現代の新進論客中該博の識と雄麗の筆と併せ得たる笹川先生思想史し

て又一觀察錄なり時に國家を提醒し社界を鞭撻し人事を觀し自然を謳理趣りあ

て修養に資く又文章の範とし大方の劉覽を俟つ

▲電報新聞批評 大觀小觀(法學士笹川潔著)本書は著者が最近一年間に於ける思想史にして又觀察錄なり而して又著者が論壇に於け

る第一回の組念なり著者先づ卷頭に喝破して曰く「日本といふ國は無法千萬な國である藩閥で無れば大臣に成れない藩閥に阿ら無れば次官に成れない……………大臣は國務の機密に參與するのを好いことにして相場をなす御用商人と結託してコンミツションを取る……………甚だしきは女郎屋の門前に巡查を見張させて公然と内で悪不戯散らすのである、議會は政府の都合をのみ謀りて一向人民の利害といふことを稽へて呉れぬ何んな悪税でも彼等はオールライトと手を拍つて賛成する眞面目に調査すら研究すら討議すら爲て呉れ無い」と又曰く「男子は女子を捕虜とし姑は嫁を奴隸とし資本家は勞動者を囚人扱にする均しく人間であるけれども日本に在りては人間の價格に著るしい相違がある、不潔なる三等車と善美なる輕便車と聯結して一組の列車が成り立てる如くに日本の社會的狀態は如何にも上下の軒輊が酷だしい」と以て著者が現代に於ける其の脚を窮ふべし而して收むる所の二十三篇文辭雄麗にして思想該博或は時事を論じ或は人事を説き又歴史を語り文學を談じ幾んど盡きざるの趣味と教訓を殘せり就中抗爭の意氣良民の歴史、非舉國一致論、蠅の目主義、日本文明史論、陳るくつての尙新らしき疑問の諸篇は實に再讀三讀に値す現時半充棟も管ならざる星雲式の柔弱文中に本書の如き警醒の活文字に接し得たるは眞に空谷逢音の感なくばあらず乃ち國民が必讀の良著として之を讀書子に推薦す

發行所

東京市京橋區南大工町一番地

弘道館

文學博士 姉崎正治先生著

國運と信仰

大國民とは何ぞや、國運の隆替は何に支配せらるゝか、國民の理想を實現する信仰の方は何れに、求むべきか、而して日本國運の將來、世界文明の將來は如何なる理想に歸着すべきか、此等の問題に對して著者の懷抱を告白したる本書は國運と信仰の問題に焦慮する憂世者の一讀を求めて現はれたり

洋裝四六判頗る美本
全一冊 正價 金壹圓
郵 稅 十 錢

◎ 大好評初版忽

賣切再版發賣

男爵 金子堅太郎先生著

日本教育之將來

『教育新聞』ノ比平 (四月三日)百三十三號

本書は金子月爵の米國土産である。男爵は久しく米國にあつて、幾回も彼地の集會に偏まされ、彼地の紳士紳商と往來してせられたのであるが、歸來先づ我が教育社會に向つて一大土産を寄せられた。本書は即ちそれである。苟も我が國將來の教育を念ふの士は、是非本書を一讀せられたいものである。

(定價)金貳十錢郵稅四錢東京弘道館發行

正價貳拾錢

郵稅四錢

後付ノ十四

發行所 東京區南大工町一 弘道館

大發展今到婦女子女の愛讀大刷新

しろうさぎ

鹿目野徑

繪

女子の品性修養に就て 日本女子大學 講師文學士鹽井雨江
 女子教育の理想 其教育家談 鈴木秋風
 何の爲の學問 野口米次郎

家

滑稽譚 山縣 蠡湖
 夏海 鹿目野徑
 子供に衣服 放任教員 義 〓〓〓流行

第六號

六月一日發行
 見本行日月
 郵券本行日月
 拾錢

女子文藝

本誌は内容豊富にして藝術趣味を鼓吹す各欄の記事
 趣味と實益とを以て横溢せり故に婦女子は勿論老人
 子供學生の好讀物たり然も價は低廉無比にして體裁
 尤美麗高雅なり

衛生

家庭衛生 女醫秋山ちか子
 胃病の話 醫學士 北山喜一郎

文

浮山藻 碧海衣水
 ソグネル樂劇物語 野口雨情
 希臘神話底子桶 森岡格雄

藝

うたゝね 相馬御風 罪と情 安部鳥橋
 山本迷羊

料理

食物の改良 法學士 葉山新樹
 牛肉と馬肉 麗子
 よい肉と悪い肉 かなじ人

各增刷來取揃誌友會 支部規定 無代進呈

青葉蔭 西村 醉夢
 女世捨人 巖谷 小波
 情のこえ 堀内 新泉

英詩文評釋(ミルトンの歌) 森岡格雄
 女子放課後の半時間 一ノ瀬はつ子
 日記を取る猿の話、大谷多、太子の戀横尾吻
 々北米に於ける本邦衣服綠波生婦人側面觀
 すればする女 夢の人

錄 雜 夢の人

繪 水彩畫(石版刷) 橋本邦助 三輪田女學校卒業生(全)
 はしき少女ギョドレ、ニ、師のわかれ(全)
 海女のなりはい(寫真版) 羅浮仙 寺崎廣業
 論文。敘事文。敘情文。川柳。和歌。俳句
 新體詩。消息文。短文。小説。家庭笑話、交
 際場裡等 愈々奮ふ

女子大學英文科卒業生(寫真版)
 佐藤生榮 音樂學校演奏會(全)

懸賞女子文藝募集 切毎月 七日限り

定價 一册 拾八册 七拾五錢 十六册 一圓四錢
 郵稅一錢

東京 小石川 區 日本書會 東京 賣捌 東海堂 東京 隆明館 上至田誠屋

後付の十五

るらせ力助に大婦夫齋弦井村

大好評

婦人世界

實用專一

六三月一日發行 第六號 一拾五錢 郵稅一分 九錢 一年七錢 五錢

◎伏見若宮妃殿下并若宮姬宮◎
 ◎ナポレオンの家庭珍品◎
 ◎愛國婦人會第五回總會光景◎
 ◎名流最近の新婚寫眞(三組)◎
 ◎名媛の筆跡◎ 滿洲美人◎

彩色石版
 徒然……… 中澤弘光
 庭の若葉……… 川面義雄
 紫陽花……… 跡見花蹊
 春日神鹿……… 中澤弘光

婦人の日常生活法

村井弦齋

容色は如何に整ふべきか
 髪は如何に洗ふべきか
 髪は如何に用ふべきか
 白粉は如何に用ふべきか
 顔は如何に剃るべきか
 心は如何に洗ふべきか
 朝飯は如何に支度すべきか
 朝飯は如何に用ふべきか
 菓物は如何に用ふべきか
 粥の飲料は如何に用ふべきか

髪は如何に梳るべきか
 櫛は如何に用ふべきか
 フケは如何に取るべきか
 白粉は何を用ふべきか
 婦人の美は如何にすべきか
 朝飯前は何にすべきか
 朝飯には何が宜きか
 何の食物が皮膚の色を白くする
 牛乳は如何に飲むべきか

右村井弦齋氏が全國婦人の心血を凝らして起す實業的的文章

娘の結婚に就き母親の心得
 田尻博士の家庭嫁入道具
 ◎家庭用器具の新形 鶴田賢次
 ◎寡婦の鑑小川房子刀自………
 ◎小兒の病氣を知る法 ドクト 加藤照齋
 ◎弦齋夫人の毒料理 天動羅萬葉
 ◎婦人と指輪 ◎蚊と衛生………
 ◎子宮内膜炎の話 伊庭醫學士
 ◎毒の話 恩田農學士 ◎豆腐の話 牧農學士
 ◎女子と体育(井口あくり) ◎裸襦乾
 ◎小兒の病氣を知る法 ドクト 加藤照齋
 ◎毒の話 恩田農學士 ◎豆腐の話 牧農學士
 ◎女子と体育(井口あくり) ◎裸襦乾

後付の十六

東京 南橋 二丁目 實業之日本社 電話 八七番 賣地 各店 發兌 元

謹告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者諸君の質疑照會に應ず、

但返信料を要す。

本誌は又一般讀者の寄稿を歓迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育幼兒保育の狀態、婦人問題、婦人兒童の遊戲、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。但投稿は、凡べて左の規則によること。

- 一、用紙は、白紙、字詰は、半枚十行廿二字詰、體は楷書。
- 一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。
- 一、原稿は、一切返附せざること。
- 一、封書の表には、凡て婦人と子ども投稿と明記せらるべし。
- 一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。
- 一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

會告

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通り會費は一ヶ月金拾錢ですから其割合で何ヶ月分かを纏めて東京京橋區南大工町一番地書肆弘道館へ御送金の上本會へ御申込下さい、さすれば雜誌は該館より御送付致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合で矢張全館へ御注文下さい、

一冊金拾錢六冊前金五拾七錢貳冊金一圓拾錢外に郵税一冊五厘づゝ

明治卅九年六月一日印刷
同 年六月五日發行

禁轉載

發行所
編輯者
印刷者

辻本卯藏
東京市京橋區南大工町一番地
日下主計
東京市神田區錦町一丁目十九番地
女子高等師範學校附屬幼稚園内
「ベル」會

發賣元

弘道館

東京市京橋區南大工町一番地

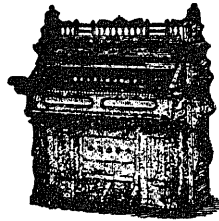
大賣捌 東京堂 金昌堂 北隆館 東海堂

明治三十四年二月廿八日
務省許認可
三種郵便物

山葉製風琴

（附險保）

壹號形金拾六圓五拾錢	貳號形金拾六圓五拾錢	參號形金拾六圓五拾錢	肆號形金拾六圓五拾錢	伍號形金拾六圓五拾錢	陸號形金拾六圓五拾錢	柒號形金拾六圓五拾錢	八號形金拾六圓五拾錢	九號形金拾六圓五拾錢	十號形金拾六圓五拾錢	第十一號形金拾六圓五拾錢	第十二號形金拾六圓五拾錢	第十三號形金拾六圓五拾錢	第十四號形金拾六圓五拾錢	第十五號形金拾六圓五拾錢	第十六號形金拾六圓五拾錢	第十七號形金拾六圓五拾錢	第十八號形金拾六圓五拾錢	第十九號形金拾六圓五拾錢	第二十號形金拾六圓五拾錢	第二十一號形金拾六圓五拾錢	第二十二號形金拾六圓五拾錢	第二十三號形金拾六圓五拾錢	第二十四號形金拾六圓五拾錢	第二十五號形金拾六圓五拾錢
------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------



● 船來洋琴、參百圓以上參千圓迄各種
● 船來風琴、百圓以上千五百圓迄各種
● 船來陸軍、吹奏樂器各種
● 戰艦紀念、吹奏樂器各種
● 八人組、吹奏樂器各種
● 右の外、手風琴、ハルモニカ、船來フラジ
● ヨーロッパ各樂器、和洋音樂書
● 各種郵券、錢御送附、らば美麗なる目
● 録進呈す



○ 鈴木製ヴァイオリン
金五圓以上五拾圓位迄各種
弓金壹圓五拾錢以上各種
箱金壹圓五拾錢以上各種
其他附屬品等各種

◎山葉洋琴金參百圓以上各種

（詳細代價表御申）
越次第進呈ス

鈴木製ヴァイオリンハ本邦ニ於ケル該器製造ノ嚆矢ニシテ爾來製作上幾多研鑽ノ結果今ヤ長足ノ進歩ヲ遂ゲ音量豊富品質佳良舶來品ニ比シ毫モ劣ル所ナキ精良品ヲ製スルニ至レリ而シテ價格亦低廉內國ニ於ケル夥多ノ需用ヲ充タシ至ル所大ノ賞讚ヲ得ツアルノミナラズ更ニ歐米ニ輸出シテ其眞價ヲ發揮シツ、ハ弊社ノ長モ光榮トスル所ナリ

山葉風琴ハ最良ノ原料ヲ以テ製造セララル、ガ故ニ其構造堅牢音律精確ニシテ本邦製風琴中ニ於テ最モ優秀ナルノミナラズ之ヲ歐美ニ比スルモ些ノ遜色ナク從來各博覽會ニ於テ師ニ最高名譽ノ賞牌ヲ受領シ汎ク歐米各國へ輸出シテ到ル處好評ヲ博シツ、アルヲ以テモ其眞價ヲ窺知スルヲ得ベシ

シガルオノアピ
繕修律調